

八峰・白神研修旅行報告書



2022年2月

秋田大学大学院教育学研究科
教職実践専攻（教職大学院）

目次

2021年度研修旅行日程等	1
参加者	2
五城目小学校の授業の様子	3
五城目小学校の子どもたち、教職員、学校設設備、教室などの様子	4
八峰町教育長講話	6
八峰町学校説明（八森小学校、八峰中学校）	7
八峰町教育委員会との協議	9
鹿の浦展望所	10
ぶなっこランド	12
ブラックサンドビーチ	14
白瀑神社・ポンポコ山	16
研修旅行感想	18
教職大学院「学校危機管理の現状と課題」における危機管理に関する指導案、研修案	21



2021年度研修旅行日程等

<p>事前ビデオ視聴</p> <p>『「想定外」を生き抜く力』片田敏孝（群馬大学：当時）</p> <p>『ぼくたちわたしたちが考える復興 夢をのせて－宮城県石巻市立雄勝小学校震災2年目の実践』徳水博志</p> <p>事前読書（いずれか一冊）</p> <p>『震災と向き合う子どもたち一心のケアと地域づくりの記録』徳水博志（新日本出版社）</p> <p>『命と向きあう教室』制野俊弘（ポプラ社）</p>	<p>11:50 ファガス・昼食</p> <p>12:30 白瀑神社・白瀑</p> <p>13:10 ポンポコ山</p> <p>15:30 秋田大学着</p> <p>12月10日（金） 「学校危機管理の現状と課題」において危機管理に関する指導案、研修案の検討</p> <p>12月17日（金） 「学校危機管理の現状と課題」において危機管理に関する指導案、研修案の発表</p> <p>.....</p> <p>チーム単位で以下のテーマに取り組む。</p> <p>①事前対応：防災・安全教育（起こらないようにする、又は起こっても深刻なものにならないようにするため）</p> <p>②緊急時対応：災害発生時、避難所（深刻なものが起こったときに、どう対応するか）</p> <p>③事後対応：心のケア、学習支援など</p> <p>④復旧対応：復興の地域づくりプラン作成、安全安心な学校づくりプラン等</p> <p>①②は指導が災害等の発生前に行われると想定する。③④は指導が災害等の発生後に行われると想定する。各チームの現職院生は教職員向け校内研修プログラム（指導案）を考える。自分の校種、勤務校を想定する。各チームの学卒院生は児童生徒向け授業・訓練プログラム（指導案）を考える。自分の実習校、校種、教科等、学年等を想定する。授業の指導案の形式になったものを作成する。</p> <p>災害の内容の想定は各人に任せる（危険動物でも自然災害でも交通事故でもいじめでも体罰でもなんでもよいが、死者・自殺者が出るような比較的深刻度の大きな事故・事件を想定する）</p>
<p>10月15日（金）</p> <p>8:30 大学出発</p> <p>道の駅十文字で休憩</p> <p>9:10～10:15</p> <p>五城目小学校見学・校長講話</p> <p>11:30～12:30</p> <p>ハタハタ館・昼食</p> <p>13:00～15:00</p> <p>八峰町教育委員会・ファガス教育長講話</p> <p>八森小学校長・八峰中学校長講話</p> <p>15:30～16:00</p> <p>山本酒造立ち寄り</p> <p>16:00</p> <p>あきた白神温泉ホテル</p>	
<p>10月16日（土）</p> <p>8:30 ホテル発</p> <p>8:45 鹿の浦展望所</p> <p>9:10 ぶなっこランド</p> <p>10:00 ブラックサンドビーチ</p> <p>10:30 発盛鉦山跡</p> <p>11:10 八森漁港</p>	

参 加 者

学校マネジメントコース

現職院生 1 年次

江幡隆弘

吉川寿朗

工藤智史

近野祥子

近野勇雄

佐藤茂樹

櫻庭泰則

正木 節

学卒院生 1 年次

平塚達也

付添教員

秋元卓也

鎌田 信

佐藤修司

田仲誠祐

原 義彦

林信太郎

カリキュラム・授業開発コース

学卒院生 1 年次

浅野匡平

阿部倫己

佐々木健真

学卒院生 2 年次

佐藤大星

大関隆貴

工藤唯花

庄司 航

新山壮一郎

発達教育・特別支援教育コース

現職院生 1 年次

大塚邦子

今井 彩

「学校危機管理の現状と課題」のみの参加者

カリキュラム・授業開発コース

学卒院生 2 年次

伊藤真里奈

小野彰斗

清水里沙

相馬舜平

高橋海渡

新山壮一郎

三保 翔

五城目小学校の授業の様子

五城目小学校は、学校教育の指針のなかで、目指す子どもの姿として「主体的・対話的で深い学びの実現」や「インクルーシブ教育に基づく共生社会の実現」を掲げている。

特に、「主体的・対話的で深い学びの実現」のなかでも、ディスカッション力と探求的に学ぶ力の育成に重点を置いており、授業を参観していても、机をコの字型に並べて児童が司会進行をしながらディスカッションする様子を見ることができた。



子どもたちがディスカッションしている様子

また、目指す教師の姿として「ユニバーサルデザインと環境構成の工夫と活用」を掲げている。これは、目指す子どもの姿である「インクルーシブ教育に基づく共生社会の実現」と重なる部分が多い。

そのため、授業のほとんどがユニバーサルデザインの考え方に基づいて設計されており、授業内で子どもたちが作った成果物も、ユニバーサルデザインに配慮されているようだった。

授業を通して目指す子どもの姿と、教師の姿がしっかりと一致しているからこそ、子どもたちも

困惑することなく主体的に学ぶことができているのだろう。



子どもたちの発表の様子

【浅野匡平】



五城目小学校の子どもたち、教職員、学校設設備、教室などの様子

【五城目小学校の子どもたち】

実際に子どもたちと関わる機会はなかったが、授業の様子を観察することができた。新しい校舎や学校の設備を使い、積極的に学習に取り組んでいる様子がみられた。また授業中は全員が授業に前向きに楽しんで取り組んでいる様子も見られたことから、五城目小学校の子どもたちはまじめで、学習意欲も高いのだと感じた。



【教職員】

五城目小学校の教職員の中で直接関わる機会があったのは主として校長であったが、校内の説明や学校経営について話を聞く中で、校長自身が五城目小学校の良さを理解し、様々な思いをもって学校経営に取り組んでいることが分かった。このことから、こうした理念を校長は教職員全員に共通理解できるようにし、教職員全体でよりよい学



校づくりをしているのだと感じた。また他の教職員が授業を行っている様子は、子どもが自ら授業に参加し、子どもが中心となるような授業づくりがなされており、校長が描く学校像が教職員一人一人にまで浸透している様子が見られた。

【学校施設設備】

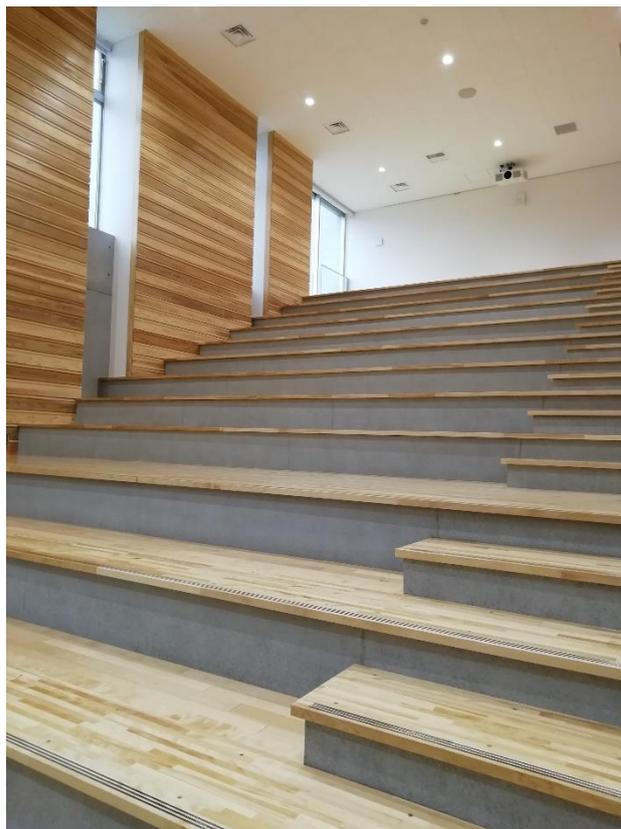
建築のコンセプトを「越える学校」とし、学校教育に留まらない、地域に開かれた場所としての施設設備、例えば図書館、学童施設、体育館・プール、町民センター、多目的に使用可能なグラウンド等が設置されている。校舎についてはシンプルで木材を豊富に使った内装であり、住空間を明るくし木材の温もり溢れるものとなっている。



【教室の様子】

五城目小学校の教室は、よく見られる壁で囲まれたものではなく、オープンスペースのある開放的な造りになっている。このようにオープンスペースにすることで、子どもたちに多様な学習を提供することができるようになり、新たな学びを創造することにつながると考える。学校生活の中心となる教室の部分には、掲示物が必要最低限に収められており、子どもたちが学習に集中しやすい環境がつくられていた。オープンスペースには黒板や机など教室とほとんど同じ様な環境がつくられており、加えて ICT 機器や学習の補助教材な

ども設置されていた。それによって、教室と一体となった学びの場としての機能が充実していた。



【阿部倫己】

八峰町教育長講話

日程1日目の午後1時より、八峰町文化交流センターファガスにて研修が行われた。本研修では、八峰町教育委員会教育長、八森小学校長、八峰中学校長の3名の先生方による講話及び各学校説明を聞き、その後に教育長、校長、学生、教員を交えた協議会を実施した。

本研修は八峰町教育委員会の川尻教育長の講話から始まった。八峰町は、町の学校教育目標である「ふるさとを愛し、豊かな心もち、力強く生き抜く人間の育成」の実現を目指し、大きく8つの重点項目を設定して取組を進めていることが印象的であった。この八項目は「八峰」という町の名前に合わせて「八つの峰」に見立てているとの紹介があり、町独自のユニークかつ分かりやすい全体構想であると感じた。



川尻教育長の講話の中では、八峰町の小中学校の特色ある教育が5つ紹介された。「コミュニティスクールの導入」「ICT 機器の整備・活用」「外国語教育の推進」「主体的・対話的で深い学びの実現への取組や研修の充実」「すべての子どもを大切に教育」という5つの教育の取組は、子どもたちの豊かな学びに結びつくことはもちろん、地域との連携を深めたり、教員の授業力を高めたりするといった点でも成果が現れることを学んだ。

これらの取組についての詳細を聞く中で、私は八峰町の小中学校は支援員の存在が非常に充実し

ていると感じた。ICT や外国語、特別支援教育など、各分野の支援員と教員の連携の体制が整っていることが特色ある教育の充実に繋がる1つの要因であると思う。例えばICT支援員であれば、機器トラブルへの迅速な対応や教材作成の助言をするなど、子どもたちの学習の場を整える重要な役割を担っているといえる。

5つの特色ある教育以外の八峰町が力を入れている取組の紹介を通して、学校と地域が密接な関係にあることが分かった。特に印象に残ったのは地域未来塾という学習支援の取組である。放課後や長期休業中の時間を利用して、教員免許を持つ地域の方々が支援員となって学習会を実施している。学校の授業に加えて、地域住民とも協力することで、子どもたちの学習機会の確保や学力の向上に相乗効果をもたらすのではないかと感じた。このような地域の資源を積極的に活かした1つ1つの活動の実施が、地域が学校教育を理解するきっかけとなり、町ぐるみで子どもを育てるという意識が生まれるのだと学んだ。

私が今回の八峰町の学校教育の取組の紹介を通して特に学んだことは、学校と地域が連携することの重要性である。地域ごとに活かせる資源は多種多様であると思うが、自分が住む地域や現場に立った際には勤務校の周辺にどのような資源があるか、そして学校教育にどのように活用できるだろうかを意識するようにしたい。

【佐々木 健真】



八峰町学校説明（八森小学校、八峰中学校）



課題実地研修では五城目小学校や八峰町の教育活動における優れた取り組みや、八峰町の自然に触れた上での地域の様子など、非常に多くのことを学ぶことができた。今回は1日目に行われた八峰町の学校説明における私の学びを述べていきたいと思う。八峰町の学校説明として、八森小学校と八峰中学校の両校の校長先生から学校経営方針やそれを踏まえた具体的な実践の紹介など貴重なお話を聞くことができた。その中でも、私が特に



参考になったことは以下の2点である。

1つ目は、地域に開かれた学校づくりのための取り組みだ。八峰町では小学校と中学校の子どもたちが連携して地域内の施設の奉仕活動を行なっていると伺った。また、中学校ではスクールバスの利用から、子どもと地域の人々の触れ合う機会が減ったことを受けて、挨拶を重視した「あったか思いやり運動」に取り組んでいると伺った。こ



ういった学校と地域が関わり、お互いが交流する機会を設けることで、信頼関係が生まれ、地域に開かれた学校ができる。加えて、子どもたちが地域の人々に喜んでもらえたり、役に立ったりして感謝されることは、子どもたちの思いやりの心の育成にもつながると感じた。

2つ目は、地域資源を存分に活用したふるさと教育と地域に根ざしたキャリア教育の実施だ。私は大学院の後期の授業で、ふるさと教育と地域に根ざしたキャリア教育についての授業を履修していたので、非常に注目していた。ふるさと教育としては、八峰町の主力産業である漁業を活用した稚魚の放流活動や、特徴的な地形を活用したジオサイト体験など、地域の魅力を改めて知ることができる取り組みがなされていた。また、地域に根ざしたキャリア教育としては、八峰町の名産品をPRする活動や、八峰町の特産品を用いてオリジナルの商品開発を行い、販売体験をする活動など、ふるさとのよさを発信しながら自身のキャリアについて考えることができる取り組みがなされていた。どちらも子どもたちが地域を知ることや愛着をもつことのできる取り組みであった。それらは、地域の未来を担う人材の育成につながると感じた。

以上が八峰町の学校説明の中で、私が特に参考になった点だ。いずれにしても、地域と学校が協力して学習活動を展開することが大切だと学ぶことができた。また、子どもたちに地域を知ってもらうためには、まずは教師が地域について調べ、どんな教育資源があるか探さなければならないと

再確認した。現場に出た際には、赴任校の地域の特徴について必ず調べることを心に留めておきたい。

【平塚達也】



八峰町教育委員会との協議

八峰町教育委員会川尻教育長、八森小学校八代校長、八峰中学校菊池校長の3名から八峰町全体での教育、また現場での実際の取組を聞かせていただき、その後質疑応答を含めた協議を行った。協議を通して八峰町の大きな要となっているものは、「町ぐるみの教育」であると感じた。家庭や学校だけでなく、地域社会をつないだコミュニティ・スクールを形成し、町全体で地域を活気づけようとしているのが先生方のお話から感じることができた。協議の中で多く質問が寄せられたところは、八峰町コミュニティ・スクールのことについてであるが、「八峰町全体の地域社会、学校、家庭をつなぐためにコミュニティスクールディレクターの存在があり、具体的にどのようにして三者と関わっていくのか？」という質問が挙げられた。ディレクターの役割としては、子どもたちに「地元の良さ、元気を発信する」ことで小・中学校の学校運営協議会をつなぎ、一つもかけてはならないものとして確立し、八峰町全体で協働し、町ぐるみで子どもたちを育てる意識を持たせることができているのだと感じた。



八峰町内の学校間の連携については、3校でお互いに授業を見に行くことで授業力の改善や連携を深めているとのことのお話であった。また、定期的に小・中学校連携をし、主任会議を定期的に行うことで学校ごとの連携を密にしている。

ICT機器の活用をよりよく行われている八峰町であるが、学校と教育委員会との関わりだけでなく、地域に根付いた結びつきの強い教育を町全体で行っていこうという意識が伝わってきた。改めて地域との関わりが学校教育において重要なものであると考えられる協議であった。この協議から学んだことを現場に出たときに活かし日々の学習や研究により一層力を入れていきたい。



【大関隆貴】

鹿の浦展望所

2日目は、昨年に引き続き、林信太郎先生による地質講座が行われた。



始めに向かったのは、八森岩館にある鹿の浦展望所である。以下に、鹿の浦展望所での林先生の解説等について記述する。

切り立った崖に設置された展望台からは、日本海を一望することができる。しかし、それだけではない。北側・南側・東側でそれぞれ異なる地形的特徴を見取ることができるのである。

まず、南に目を向けると、海岸のすぐ近くまで山々が迫り、砂丘が広がっている。

秋田に砂丘があるということは、私にとって意外な事実であった。実はこの砂丘、鳥取の砂丘よりもはるかに規模が大きい。林先生は、この砂丘の「美味しい秘密」について解説をしてくださった。

砂丘の下には硬い地盤があり、雨水が浸透しづらい。そのため、雨が降ると砂丘で濾過された雨水が湧き水となって、八峰町へ美味しい水を与えてくれる。これが「美味しい秘密」である。秋田の数ある名酒の一つである「山本」もこの湧き水によってつくられている。

次に北を見ると、南側とは異なり海岸にはゴツゴツとした岩が見られる。この岩は、海底火山の

働きによってできた火山岩である。よく見ると、曲線を描くように細かな層が重なる「褶曲(しゅうきょく)」も見られる。

林先生は、この火山の働きが八森に2つ目の恵みを与えていると説明してくださった。

火山の噴火によってできた岩は、水蒸気による隙間が沢山ある。この隙間だらけの岩に、秋田の名物ハタハタが産卵するのである。毎年冬になると、美味しいハタハタが水揚げされ、町が賑わう。これが美味しい水に続く2つ目の恵みである。

最後に東側に広がるのは、白神山地である。

東北は、日本海側と太平洋側から挟まれるように圧がかかっている。両側から押されることで、地層には断層や褶曲ができる。先程、北側の海岸に見られていた褶曲もこの圧によってできたものである。白神山地は、何千万年という歳月をかけて日本海側と太平洋側から押されて形成されていたのである。

以上のように、鹿の浦展望所からは八森の地形的特徴を見ることができた。そして、林先生の解説により、こうした地形的特徴が八森の産業や観



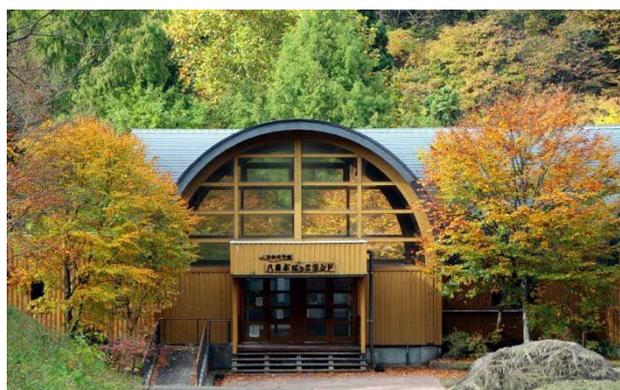
光と深く関わっているのだと気づくことができた。

【工藤唯花】



ぶなっこランド

地球について学び、丸ごと楽しめる場所としてジオパークがある。ジオパークは日本全国に44カ所ある。その中でも秋田県には、八峰白神、男鹿半島・大潟、鳥海山・飛鳥、ゆざわの4カ所が存在する。



今回の教職大学院の研修旅行では、八峰白神ジ



オパークの拠点施設であるぶなっこランドを訪れた。

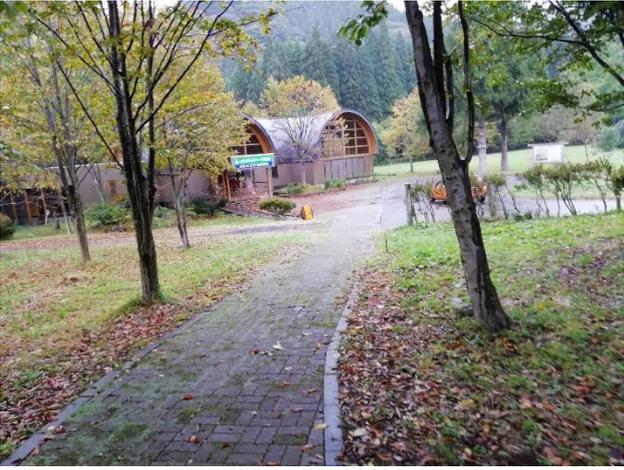
ぶなっこランドは、一部が世界遺産としても登録された白神山地や縄文時代から続くブナ林の生態について展示をしていたり、自然観察会や体験活動を行ったりすることもできる施設である。今回の研修でも始めに、白神山地の立体地図模型で一帯の位置やぶなっこランドの施設概要の説明を受けた。ジオパークは4年に1度ジオパークとし

てふさわしいかの査定が入るそうで、条件の1つにもなる教育活動にも力を入れていることが分かった。

私がぶなっこランドの展示に興味をもったのは、ブナ林についての展示であった。ブナ林とそれに関係する森の保水力やマタギなどのことまで紹介されていた。また、白神山地やブナ林だけでなく発盛鉱業所についての展示や研修旅行で私たちも訪れたブラックサンドビーチの黒い砂の展示なども行っており、理科や社会科、総合的活動など様々な機会に活用出来る施設であると思った。子どもだけでなく大人が訪れても学びがあり世界遺産の白神山地の魅力を知ることのできる施設であった。



【庄司航】



ブラックサンドビーチ

天候が悪い中、私たちはブラックサンドビーチへ行った。「黒い砂浜」と聞き、私は少し黒っぽいだけで大げさに言っているのだろうと思っていたが、実際に着くと、そこは本当に「黒い砂浜」。初めて見るその光景に、感動よりもなぜ黒いのかという興味が湧いてきた。

いざ、砂浜に足を踏み入れてみると、雨のせいかもしれないが、砂浜のさらさらとした感触よりも、スポンジの上を歩いているような柔らかい感触があった。そして、手にとって触ってみると、砂よりも粒が大きく、ざらざらとした手ざわりで、砂ではないことがはっきりと分かった。また、周辺を散策すると、普通の砂浜ならいそうなカニやヤドカリ、フナムシの姿はなく、生き物が住んでいる痕跡も見つけることができなかった。

しばらくすると、林先生のご講話があり、ブラックサンドビーチの砂浜はなぜ黒いのかについて教えていただいた。その黒い砂の正体は「カラミ」だったのだ。カラミとは熱して液状にした鉱石から金属を精錬する際に、不要な岩石が溶けて分離し、その不要な岩石が再び固まったものことである。いわゆる、「残りカス」。昔はこのカラミをカラミ石にして、家の瓦や塀、ベンチ、寺の階段など様々なものに使っていたそうだ。だがこのブラックサンドビーチのカラミは有効活用するのではなく、海へ廃棄したものが波で打ち上げられたものなのである。海の生物に悪いような気もするが、素晴らしい景観があるのはそのおかげなのだ。

その講話を聞いて新たな疑問が生まれた。周りを見渡しても、工場や鉱山の跡が無い。どこからカラミは廃棄されたのだろうか。それは、ブラックサンドビーチの次の目的地である「八森(盛)鉱山」というところだ。この八森鉱山は明治時代から採鉱されはじめ、銀や銅を主に採鉱していた。ブラックサンドビーチの黒い砂は、この鉱山から採鉱される銀や銅の残りカスが廃棄されて、波で

打ち上げられたものが正体だったのだ。

今回は天候が悪く、海も荒れていたのもあまり良い景色とは言えなかったが、晴れた日のブラックサンドビーチはとてもきれいだと思える。ただ、夏のブラックサンドビーチは地獄だろう。黒い砂は太陽光を吸収するので、とてつもない温度になる。夏に行って、砂浜で遊ぶことはできないため、少し残念だと思った。しかし、珍しい黒い砂浜を眺めることや、その歴史を知ることだけでも、ブラックサンドビーチへ観光する価値はあるだろう。

【佐藤大星】





白瀑神社・ポンポコ山

【白瀑神社】

研修旅行2日目、私たちは白瀑神社という場所を訪れた。この神社の境内には、「白瀑」という落差十数mの滝があり、その付近はとても神聖な雰囲気に含まれていた。この場所は、慈覚大師円仁が「世に比類なき霊地なり」とし、滝の北方岩上に不動尊を安置し、修業した地とされている。さらに、「波切り不動伝説」という言い伝えもあり、現在でも多くの参拝者がこの白瀑神社を訪れている。

また、毎年8月1日に行われる「例大祭」では、白装束の男衆が氏子町内を練り歩き、白瀑の滝壺に神輿ごと入る、通称「神輿の滝浴び」が行われ、五穀豊穰・海上安全・商売繁盛などを祈願する。神輿が滝に入るのは、その昔担ぎ手の若衆が暑さのあまり神輿を担いだまま滝壺に飛び込んだことが始まりとされ、全国でも神輿が滝壺に入るのは当社だけと言われており、勇壮な中にも涼気漂う夏の神事として知られている。

白瀑神社では、現在も禊や武道の修練等を目的とした滝修行を行っているので、ぜひ体験してみたいと思った。

【ポンポコ山（砂丘）】

ポンポコ山では、たくさんの砂丘を見ることができた。この砂丘の砂は海から風で運ばれてきたもので、石や砂鉄が混ざっていない純粋な砂であると聞き、実際に触ってみた。すると、とても軽くサラサラとしていて、これまで触ってきた砂とは明らかに違う感じがした。

現在、ポンポコ山公園の周辺では、砂丘の水はけの良さを利用して、梨の栽培が盛んに行われている。しかし、昔は砂から田んぼを守るために苦労したという話を聞き、現在に至るまでの地元の方々の苦悩や努力を感じることができた。

最後に、「白瀑神社」や「ポンポコ山」は、知れば知るほど奥が深い八峰町の貴重な教育資源で

あると思うので、地元の子どもたちだけでなく、県内全ての子どもたちに一度は訪れてほしいと思う。また、私自身も今回学んだことを秋田県のこれからの担う子どもたちにしっかりと伝えていきたいと思う。

【新山壮一朗】





研修旅行感想

【学部卒院生】

○今回の課題実地研究を通して、地域に根ざした学校教育について、今までより深く考えることができた。特にふるさと教育を行うにあたっては、今ある故郷の魅力や課題に触れるだけではなく、過去に起こった戦争や震災などを用いた教育の大切さに気づくことができた。なんとなく過ごしているだけでは気付けないような地域の教育資源を活用するためにも、教育長が仰っていたように「若いうちは積極的に」先輩教師の知恵を吸収していきたい。

○今回の研修旅行は、多くの学びがあり、大変有意義な2日間であった。1日目には、五城目小学校訪問や八峰町の教育に関する講話を通して、様々な取り組みを知ることができ、とても勉強になった。2日目には八峰町の様々な場所を訪れ、自分の知見を広げることができたので良かった。この2日間を通して、自分の教員としての引き出しをたくさん増やすことができたので大変満足している。また、ストマスと現職の親睦を深める機会としても、大きな役割を担ってくれた旅行だったのではないかと思う。そのため、今後もぜひ続けていってほしいと思う。

○五城目小学校、八峰町への課題実地研修を通して、第一に八峰町の魅力が一番に感じる事ができた。おいしい海の幸、八峰町の地形から出来上がった湧き水からできる日本酒も頂き、短い時間であったが、非常に教育面だけでなく、地域性として勉強になることが多かった。どのような地域においても地域の教育資源を活かしその地域に根付いた教育を行うことがしていかなければならないと感じた。来年度からどの地域に赴任するかわからないが、自分自身がその地域への勉強を怠ることのないようにしていきたいと感じた。

○全体を通して、「環境が子どもを育てる」と改めて実感した。この環境の中には、地域の教育資

源や産業、住民、学校の設備などが含まれる。それらの、資源を探したり、人をつなげたり、設備等を改善したりするのが教師の役割であると強く感じた。そのために教員は広い視野を持ち、学び続けることやコミュニケーション能力が必要になってくる。実際に秋田県の知らない土地で勤務になった場合はまず、周辺を歩いて、地域の様子を見て回ってみようと思う。「町ぐるみで子どもを育てる」の理想的なモデルを八峰町で見ることができ、良い経験になった。

○日程1日目の学校訪問及び講話・協議を通して、それぞれの学校や地域での重点的な取組を知り、その成果と課題についても学ぶことができた。特に八峰町ではコミュニティスクールの導入やジオパークの活用などから、町全体で子どもを育成しようとする協働の姿勢や地域の資源を最大限活かそうとする取組を知ることができ、多くのことを学べた。日程2日目は、町全域がジオパークである八峰町の様々な場所を訪問し、実際に見て触れて学ぶという貴重な体験ができた。学校周辺の特徴的なスポットや地域そのものをいかに教育資源として活かすかを考える良い機会になった。

○1日目は五城目小学校と八峰町で行われている教育について学んだ。どちらも学校と自治体が目標を共有して連携することで、主体的・対話的に学ぶ子どもの育成と地域に開かれた学校の実現を可能にしていた。2日目は八峰町の地域に関して学んだが、地形の成り立ちや特徴、それに伴って発展した産業を知ること、今までと町の見方・考え方が変わることを知った。八峰町に限らず、秋田県内他の地域についても私はまだまだ何も知らないと思ったので今回の研修を参考に他の地域のことについても調べてみたいと感じた。

○今回の実地研修を通して、実際に地域にある教育資源や教材化できそうなものに触れることでそ

の良さに気付くことができるという体験をすることができた。こうして見つけた資源を教材化するためには、専門的な確かな知識と教材化する技能・経験が必要になると感じた。これは場数を踏んで、自分な中に蓄積していくことが近道であると感じた。また実地研修中は街歩きをする中で特産品等にも触れる機会があり、楽しむことができた。今回の研修で得られた学びを今後の教育活動に活かしていきたい。

【現職教員院生】

○教育委員会や学校は、その地域の強みや課題を十分に把握し、目指す子ども像を達成するために一体となって教育活動に取り組む必要があると感じた。そのためにも学校と教育委員会は、地域といかに連携し、地域ぐるみで子どもたちを支えていくことができるかが重要であると考えた。二日目の実施研修は、その土地の成り立ちを教えてくださいただくことで、なぜ八峰町が果樹の生産が盛んなのか、おいしいお酒があるのか、白神山地区が世界遺産となったのか、等が分かった。その土地を理解するにはその土地の大きな歴史を知ることが大切であり、地域の成り立ちを知ること、また新たな視点で地域を見つめ直すことができると感じた。

○八峰町教育長、八峰中学校長、峰浜小学校長から、八峰町が行っている教育の特色についてお話を伺う時間があつた。町の学校教育目標は「ふるさとを愛し、豊かな心を持ち、力強く生き抜く人間の育成」であつた。この目標の達成に向けて様々な取り組みが行われており、その一つが平成29年度から導入したコミュニティ・スクールである。地域が目標を共通理解し、全体で子どもを育てていこうとする前向きな姿勢を示していた。

しかしながら、「過疎化」と「高齢化」が町の課題としてあげられていた。この課題を解決するためにも、町の教育資源を大いに生かした「ふるさと教育」の効果的実践も、今後速やかに進めら

れなければならない。この二つの課題は八峰町だけのものではなく、秋田県内全ての市町村の課題なのではないだろうか。おそらく県単位での対策も必要となっていくのだろうと考えた。

○地域資源に触れ、その地域の教育活動に触れたことで、ふるさと教育の可能性について考えることができた。事前に見たビデオを通して、教育の力がその地域にどのように根ざしていくかを考えることができた。ふるさと教育は、その地域の成り立ち、自然や人・文化の歴史について学び、わたしたち教員がその魅力やよさを十分に知っておくことが大切だと感じた。今回の研修を通して、これまでは意識できなかった新しい視点や見方、考え方で、地域資源に触れることができるようになった。地域資源を活用した自校の学習活動に生かしていきたい。

○初日の五城目小学校及び八峰の教育に関する講話会も二日目の八峰の資源の視察も、実際にそこに行き、更に詳しく話を聞くことによって新たに発見することがあり、とても新鮮でした。一昨年までは、被災地を訪れていたということでしたが、県内の学校にも地域にも魅力があり発見がありました。今回は先生方にご尽力を頂き楽しい時間を過ごさせて頂きました。来年度も県内での研修であれば、学生が企画運営をしてはどうかと思いました。企画や外部機関との渉外は学校現場でも良い経験になると思います。机上では味わうことのできない楽しい研修でした。本当にありがとうございました。

○15日の小学校訪問、講話、16日の巡検、ストマスとの交流と非常に充実した研修だった。ありがとうございました。本来であれば被災地を訪ねるということであつた。事前にビデオを視聴してその意義が良くわかつた。地域に必要な教育をどのようにして作り上げるかを学ぶのは大切だ。ぜひ来年度は実施できればよいと思う。今回は八峰町を訪問し、教育にとって地域とのつながりやそこにしかない人的、自然的な資源を活用するこ

とがいかに重要かということを実感することができた。高校と地域とのつながりを考えるうえでたくさん示唆を得ることができた2日間だった。

○ 「地域の特色を生かした教育」という言葉をよく耳にするが、特色とは特別につくり出すものではなく、資源としてもともとそこにあったものと捉え、「どう生かすか」、「どこに目を付けるか」、そういう力量を学校は高めていかなければならないと感じた。今回、八峰町のいろいろな「教育資源」を訪ねたが、移動は数分で終わってしまい、狭い範囲内に多くの「宝」が存在していることを実感した。自分の所属校周辺、または地域、町を、そのような観点でもう一度見直す必要があるのではないかと感じた。地域を見る目や観点を考え直す貴重な機会となり、充実した研修だった。

○秋田というどうしても「過疎化」「高齢化」「少子化」など否定的なキーワードに目が向きがちである。しかし、今回の実地研究を通して、秋田は有り余るほどの教育資源に囲まれた土地であるということに気づいた。確かに鉱産資源のように枯渇してしまったものもあるが、ブラックサンドビーチのように遺産が資源化しているものもある。八峰のみならず、他の秋田県の地域でも視点を変えて見直すことで、豊かな秋田の再発見ができるのではないかと思った。

○五城目町も八峰町も、町全体で子どもの教育を支援していこうという姿勢が見られ、学校教育への関心と期待を考えると、教員の責任は大きいと感じた。それと同時に、学校の抱える課題を学校だけで解決するのではなく、地域住民とともに考えていくことが大切であると感じた。八峰町を訪れたことはほとんどなかったのので、今回林先生の説明を受けることで、地形や食、そのつながりに

ついて詳しく知ることができ、興味を持った。地域活性化のためには、まずその土地をよく「知る」ことが大事である。近いうちにまた訪れたい。食事もおいしく、充実した実地研究だった。

○五城目町（五城目小学校）と八峰町（八峰小・中学校）の教育から、地域を挙げて取り組む「ふるさと教育」の実際を学んだ。地域（町全体）と学校が一体となって取り組むための、「リーダーシップの在り方」「明確なビジョンを分かりやすい言葉で浸透させることの大切さ」などを改めて学び、推進に向けて多くのヒントを得ることができた。その中でも「やってみてダメだったら戻す」気持ちで思い切ってやってみることが改善につながるという八峰中学校の菊地校長先生の言葉が心に残っている。学校組織を動かすためにはこういった視点をもつことも必要だと考え、今後の研究や学校現場での取組に生かしたい。

○五城目町も八峰町も、魅力ある教育資源を生かし、地域ぐるみで特色ある学びづくりに力をいれていた。地域の教育力を効果的に取り入れながら、学校や家庭との協力体制を築きながら人的ネットワークを広げ、それぞれを密接につなげ合うリソースマネジメントが素晴らしかった。地域の活性化のために学校が核となってさまざまな知恵を出し合い、地域と共に歩む学校づくりに向けた各方面の方々の協力体制の素晴らしさをあらためて実感できた研修だった。また、八峰町では、白神山地や白瀑神社の成り立ちや、梨や日本酒など地域の豊かな自然の恵みを生かした地域産業などを、地形学的特徴から分析するという新たな視点で再発見できた貴重な体験だった。他の地域の教育資源を探るときの参考にしながら、ふるさと教育を充実させていきたい。

教職大学院「学校危機管理の現状と課題」における
危機管理に関する指導案、研修案

総合防災訓練の実施と事前の研修プログラム

～安全安心を地域と共に～

櫻庭泰則 工藤智史

総合防災訓練の概要

想定	・地震発生に伴う避難訓練と、避難所としての役割を想定した訓練
コンセプト	・防災意識を高め、 備える ・防災スキルを身に付け 命を守る ・学校と地域が協力して 乗り越える
期日	R3年8月27日(金)
場所	〇〇小学校
時間	9:00～13:00
参加者	全校児童生徒 教職員 保護者 地域住民 関係機関

協力団体と協力・連携の内容

団体名、組織名	協力、連携の内容
日本赤十字社秋田県支部	<ul style="list-style-type: none"> ・ 訓練内容を立案する際の指導 ・ 総合防災訓練当日の演習を中心にした指導（炊き出し、AED 心配蘇生、怪我の手当、熱中症予防、身体保温法）
〇〇市社会福祉協議会	<ul style="list-style-type: none"> ・ 防災に関わる物品の借用（炊き出し釜等） ・ 赤十字〇〇支部ボランティアへの派遣依頼
〇〇市役所危機管理室	<ul style="list-style-type: none"> ・ 総合防災訓練の総評 ・ 次年度へ向けたアドバイス
赤十字〇〇支部ボランティア	<ul style="list-style-type: none"> ・ 総合防災訓練当日の演習の補助
各自治体	<ul style="list-style-type: none"> ・ 総合防災訓練への参加
PTA	<ul style="list-style-type: none"> ・ 総合防災訓練への参加 ・ 訓練進行の手伝い

総合防災訓練の具体的な内容 ～避難訓練からスタート



AED・心肺蘇生



炊き出し訓練 ～ 受け取り



総合防災訓練の具体的な内容



ケガの手当



身近な物で作る
避難用グッズ制作



熱中症予防

総合防災訓練に向けた一連の流れ

年間計画作成	総合防災訓練を軸とした防災教育を教育課程の中に位置づけた計画立案
事前の取組	【職員】 ・ 避難所開設に向けたシュミレーションとロールプレーを基にした職員研修
	【児童生徒】 ・ 地域住民への発信 ・ 非常食メニューの開発 ・ 三二講習会
総合防災訓練	
他の学習との関連	・ 日常生活や体育での集団行動 ・ 家庭科での非常食メニュー調理 ・ 思いやりの心の育成（道徳科を中心に） ・ 社会科（防災教育）との連携 等

「わかる」ではなく 「できる」 ための校内研修へ

避難所開設シュミレーション研修（1）

▶ 研修のねらい

災害発生時に備え、避難所運営時の職員配置や、開設の手順を確認し、避難所開設への具体的な見通しをもつことができるようにする。

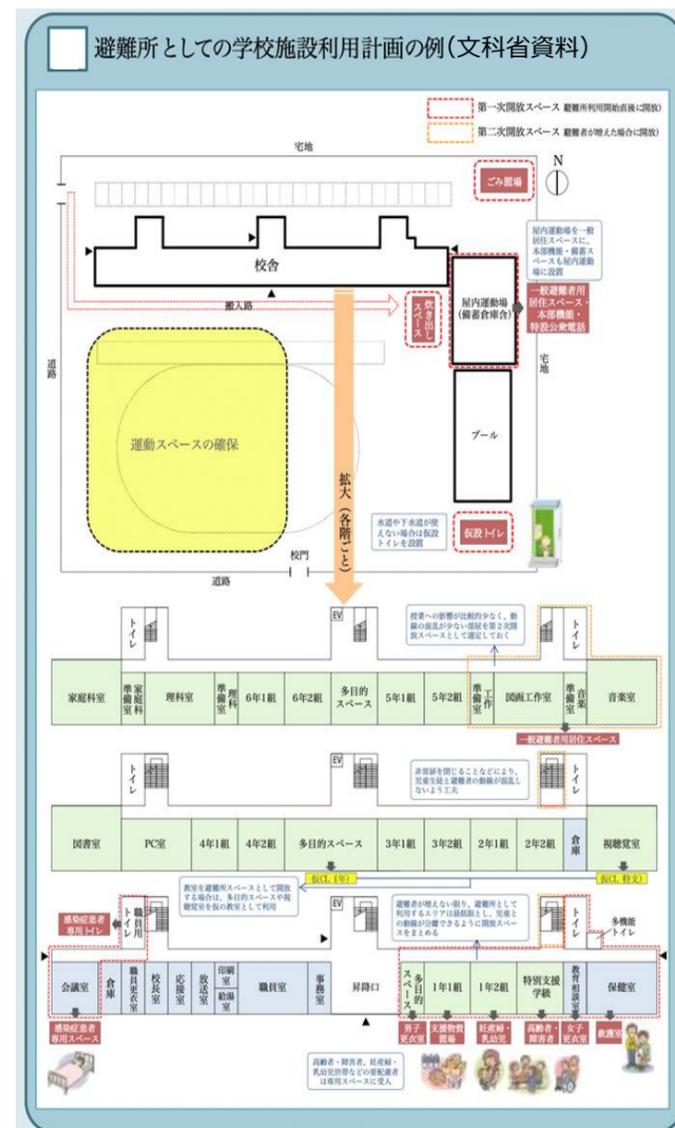
避難所開設時に、誰が、何を、どのように行うか手順を理解する



災害発生時の迅速な行動

▶ 避難所開設シュミレーション研修（グループ研修）の流れ

- ①地域住民が学校に避難してきた際に、**なすべき対応について付箋**に書いて貼る。
- ②地震発生から避難所開設までの流れを、**時系列**にそって分類して整理する。
- ③校舎見取図をもとに**避難所を目的別エリア**に分け、職員の役割と配置を決定する。
(炊き出しスペース 仮設トイレ 居住スペース 妊産婦 乳幼児等)
- ④**災害備蓄品等の確認**



避難所開設シュミレーション（実技編）

○ 安全講習会・炊き出し・居住スペース

⇒ けが応急措置方法 ハイゼックス炊飯 ダンボール間仕切り

消防隊員による 応急手当の講習



ハイゼックス炊飯



ダンボールの組み立て



災害発生時、避難所設置に対応した総合防災訓練実施計画

工藤 智史

☆実際に総合防災訓練を全職員で企画・実施していく過程が研修機能を果たす、として計画・実施する。

1 概要

名称	総合防災訓練～安全安心を地域と共に～
概要	<p>地震発生に伴う避難訓練と、避難所としての役割を想定した訓練</p> <p>〈コンセプト〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・防災意識を高め、備える ・防災スキルを身に付け命を守る ・学校と地域が協力して乗り越える <p>期日：(夏季) 年 7月 日() (冬季) 年 12月 日()</p> <p>場所：秋田県立〇〇支援学校</p> <p>時間：9:00～13:00</p> <p>参加者：全校児童生徒 教職員 保護者 地域住民 関係機関</p>

2 実践内容

	取組内容
年間計画の作成	<p>(総合防災訓練推進委員会メンバーと教育課程検討委員会メンバーで作成)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・総合防災訓練を軸とし、教育課程全体の中で防災教育を実施するよう計画 ・地域住民との交流を深め、学校理解の推進と、学校が災害時に避難場所としての機能を果たすこと、及び総合防災訓練の実施とその必要性を地域住民へ周知
事前の取組	<p>(職員研修)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・災害発生時の対応及び避難所を開設するまでの手順を、事前にロールプレーで実施 ・どの関係機関へどのような支援要請をするのか、教職員へ事前に周知 ・避難所開設に当たっての、発電機等の防災備品の使用訓練、心配蘇生訓練、怪我の応急処置訓練等を事前に実施 <p>(児童生徒)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・総合防災訓練のチラシの制作と保護者、地域住民への配付(小・中・高) ・高等部生による小中学部生への防災意識を高めるための防災ミニ教室の実施(全校) ・防災グッズの制作(学校にあるもので何ができるか)(中・高) ・炊き出しメニューの開発(高等部)
総合防災訓練(全校)	<ul style="list-style-type: none"> ・地震を想定した避難訓練 ・学校が避難所となった場合の訓練 <p>→炊き出し(調理・試食を含む)、AED 心配蘇生、怪我の手当、身近な物を活用した防災グッズ制作、(夏季)熱中症予防 (冬季)身体保温、</p>
他の学習との関連	<ul style="list-style-type: none"> ・中学部・高等部では交流及び共同学習での AED を用いた心配蘇生の講習会を実施 ・生活単元学習や総合的な学習(探求)の時間における被災時の食事メニューの開発 ・日常生活の指導や体育等における集団行動 ・教育活動全般(主に道徳科)における、思いやりの心の育成 ・地域へのプランター設置、地域の花壇整備等での地域住民との交流(授業を通じた日常的な交流) ・成果と課題を定期的な避難訓練へ般化

3 協力団体・組織

団体名、組織名	協力、連携の内容
日本赤十字社秋田県支部	・ 訓練内容を立案する際の指導 ・ 総合防災訓練当日の演習を中心にした指導（炊き出し、AED 心配蘇生、怪我の手当、熱中症予防、身体保温法）
〇〇市社会福祉協議会	・ 防災に関わる物品の借用（炊き出し釜等） ・ 赤十字〇〇支部ボランティアへの派遣依頼
〇〇市役所危機管理室	・ 総合防災訓練の総評 ・ 次年度へ向けたアドバイス
赤十字〇〇支部ボランティア	・ 総合防災訓練当日の演習の補助
各自治体	・ 総合防災訓練への参加
PTA	・ 総合防災訓練への参加 ・ 訓練進行の手伝い

4 実施後の振り返り研修

- ・ 職員アンケート，参加した地域の方のアンケート等をもとに，振り返り（事後研修会）を行い，成果と課題を検討し，次回の実践に生かすようにする。

避難所開設想定研修会 実施計画

櫻庭 泰則

1 研修の目的

円滑な避難所運営を図るため、災害時における組織づくりや対応手順の確認を行うとともに、教職員が自分の役割を理解する。また、学校として想定される問題や対応、備蓄品についての理解等について教職員間で共通理解を図る。

2 研修の効果

①全ての教職員で、学校が避難所となったときに自分の役割を理解することで、危機管理意識の向上につながる。

②学校が避難所となったことを想定した対策をとることで、災害時に臨機応変に対応できる。

3 研修の流れ（研修予定時間 60 分）

（1）確認と内容の説明【10分】

災害が起きてからの流れの確認 避難所運営の留意点についての説明等

（2）グループ協議①【15分】

学校に地域住民が避難してきたときに、学校が迫られる対応についての考えを付箋に書き、拡大ワークシート貼り付ける。班内で意見交換をしながら小テーマごとに分類し、グループの考えを発表する。

（3）グループ協議②【10分】

他の班の意見も含めながらでた意見を時系列に並べ、「学校が対応すべきこと」と、「市町村や地域が対応すべきこと」を分類する。（避難所解説&運営スケジュール表を作成する。）

（4）グループ協議③【10分】

学校として準備しておくべき物（こと）を模造紙に書き、グループ内で意見交換しながら分類し、発表する。

（5）指導助言 学校防災体制の一層の充実に向けて【15分】

大仙市防災管理監（危機管理アドバイザー）による指導講評

4 災害発生 of 想定

発生時刻	令和〇年1月〇日（児童が在校中）
地震の想定規模	震度7
天気	雪（氷点下に下がる予報）
状況	電気・ガス・水道が使えない
その他	負傷者多数 校舎・体育館は使える状態

5 進行上の留意点

①グループ協議では、避難所に見立てた体育館の平面図を準備し、避難所開設の具体的なイメージがもてるように、校地の見取り図や市の防災ハザードマップを準備しておく。

②中学校区の小中教員とともに、市町村の防災部局の防災管理監もアドバイザーとして参加していただく。

③学校の最大収容人数を確認しておく

④研修後、備蓄倉庫にあるものの確認（防災食 段ボール仕切り 仮設トイレ プライベートルーム用テント）などを行う

⑤避難所内でのルール（避難者へ周知すべきこと）についても考える

⑥現場の統括責任者（校長不在の場合も含む）、1次避難者の受け入れ体制、校舎の使用法、避難所日誌の準備等、組織と係分担の体制についての防災マニュアルに沿って確認しておく。

教科横断的な防災教育 ～社会科・総合的な学習の 時間を中心に～

Bチーム「災害発生時、避難所」

1

主な関連教科と指導内容（4年生）

	社会	総合	道徳	行事
4月	「安全な暮らしと街づくり」 ①事故・事件のないまちを目ざして ②災害からまちをまもるために	命を守るプロジェクト ～災害から命を守る～		
5月			「思いやりって」	
6月			「生きているしるし」	防災訓練
7月				

2

「安全な暮らしと街づくり」

小単元：②災害からまちをまもるために

時数	ねらい	主な活動
1	県内で過去に起きた災害の概要について理解している。	過去に起きた災害の概要について調べ、まとめる。
2	災害時における人々の生活を知り、学習問題を立てて解決の見通しをたてる。	資料を基に、災害時における人々の生活を知り、学習問題を立てる。
3	地震が発生した際に、自身の命を守るためにどのように行動するかについて考える。	物語を通して、自分の行動を考え、命を守るためにどのように行動することが優先かを考える。

「自助」について
取り上げる

正常性バイアス⇒非常時モード
「てんでんこ」

3

「安全な暮らしと街づくり」

小単元：②災害からまちをまもるために

時数	ねらい	主な活動
4	家庭における、震災前と震災後での準備と対策について具体的に想定する。	家庭では地震に備えてどのような取り組みをしているか調べ、震災前後での準備と対策を分類する。
5	学校や通学路において家庭と同様に、震災に備える取り組みを理解する。	学校や通学路で備えているものを調べ、家庭と比較し、違いを考える。
6・7	震災を自分事として捉え、避難経路を考えることができる。	ハザードマップや資料を基に、近くの公園から避難所である学校への避難経路を考える。

自分達の避難経路を考える

4

「安全な暮らしと街づくり」

小単元：②災害からまちをまもるために

時数	ねらい	主な活動
8	自分達が地域でできることについて、具体的に想定する。	地域の防災組織について調べ、震災前と震災後において自分達にできることを考える。
9	今までの学習を振り返り、家庭・学校・市全体の役割や連携を理解する。	学習カードを基に、学習したことを振り返り、家庭・学校・市全体の役割や連携をまとめ、整理する。
10	自助・共助の視点から、避難所において必要なマナーやルールを考える。	避難所での生活や人々の思いを想像し、自助・共助の視点から、避難所におけるマナーやルールを考える。

**避難所のマナーやルールを考案
自助＋共助**

5

本時（3/10）

ねらい：地震が発生した際に、自身の命を守るためにどのように行動するかについて考える。

1. 学習したことや、知っていることを話す



災害には、どんなものがあったかな？

今日は、津波について考えていくよ。

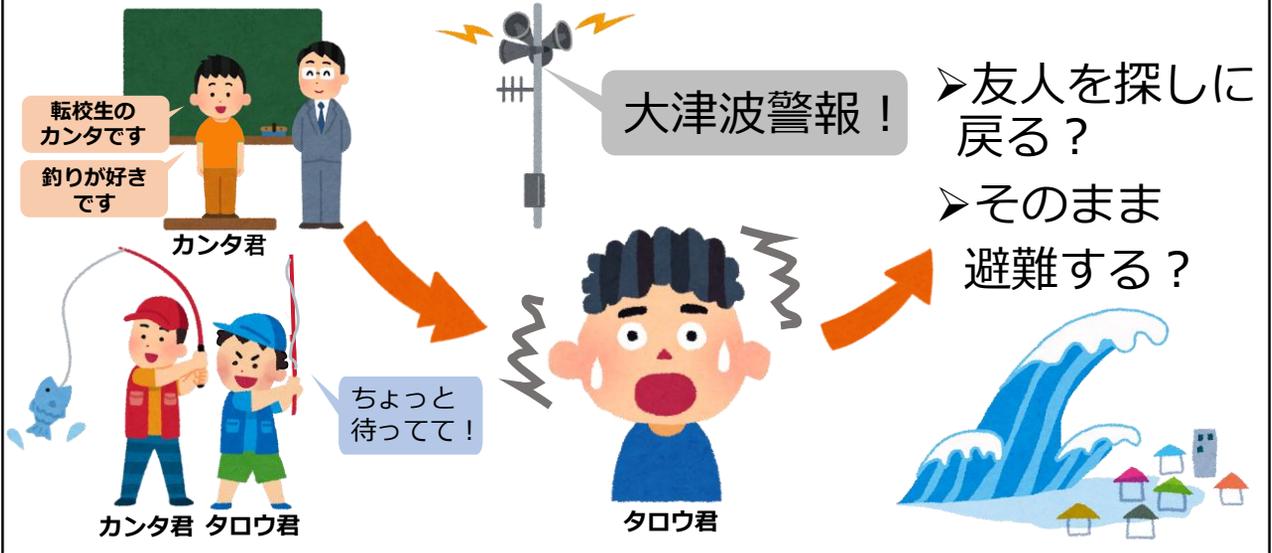
2. めあてを確認する

津波が近づいている中で、あなたはどのように行動しますか？

6

本時 (3/10)

3. 物語を読む「友達を確認する？避難する？」



7

本時 (3/10)

4. それぞれの意見を発表する

戻る派

探しに行く間に、津波が来たら…

カンタは待っていると思う。戻るべき！

タロウも自力で逃げるはず！

逃げる派

カンタは、避難場所をよく知らないのでは？

この町だったら、どれくらいで津波がくるのかな？



8

本時 (3/10)

5. NHK for school 「地震が起きた時は、川に近づかない」を視聴し、震災直後における川の危険性について考える。
6. 福島民報「ゴンちゃん一家、避難する～津波てんでんこ～」を視聴し、自身の命を守るために大切なことを確認する。



次時 (4/10) 家庭における震災への備え

9

引用・参考URL

- NHK for school 「地震が起きた時は、川に近づかない」
https://www2.nhk.or.jp/school/movie/clip.cgi?das_id=D0005320310_00000



- 福島民報「ゴンちゃん一家、避難する～津波てんでんこ～」
<https://www.youtube.com/watch?v=cKzoGlfS5qg>

- 矢守克也『教育現場の防災読本』「第3節 津波てんでんこー『助かる』と『助ける』の融合」京都大学学術出版会, 2018, pp.320-332
- 藤井基貴『教育現場の防災読本』「第4節 ジレンマ授業」京都大学学術出版会, 2018, pp.333-347

10

第5学年 社会科指導案

R3.〇〇 〇校時
指導者 工藤唯花

1. 主題名「友達を確認する？避難する？」

2. 本時の実際

(1)ねらい

地震が発生した際に、自身の命を守るためにどのように行動するかについて考える。

(2)学習過程

段階	学習活動 ・予想される子どもの姿	学習 形態	教師の支援 評価
5分	1. 災害について、学習したことや知っていることを話し合う。	全体	<ul style="list-style-type: none"> ○本題材への興味や関心を高めるために、理科「流れる川の働き」で学習した内容などを取り上げる。 ○本時のめあてへとつなげるため、「津波」について取り上げる。
2分	2. めあてを確認する。		
津波が近づいている中で、あなたはどのように行動しますか。			
8分	3. 物語を読み、自身がタロウであると想定して、「友達を探しに向かう」「すぐに逃げる」かを意志決定する。	全体	<ul style="list-style-type: none"> ○本時の内容を自分事として捉えられるよう、「自身がタロウだったら、『友達を探しに向かう』『すぐに逃げる』のどちらを選ぶか」について問いかける。 ○お互いの意見を可視化できるよう、黒板に上記2つの選択肢を掲示し、どちらかにネームプレートを張るよう伝える。
10分	4. それぞれの意見を発表する。	全体	<ul style="list-style-type: none"> ○相手の考えを理解したり、自身の考えを深めたりできるよう、「友達は、避難場所を知っているのかな？」「この地域だったら、どれくらいで津波が到達するのだろうか？」と発問する。
15分	5. NHK for school「地震が起きた時は、川に近づかない」福島民報「ゴンちゃん一家、避難する～津波てんでんこ～」を視聴し、自身の命を守るために大切なことを考える。	全体 全体	<ul style="list-style-type: none"> ○自身の命を守るために大切なことを考えるために、「てんでんこ」という言葉を取り上げる。
5分	6. 考えを発表し、次時のめあてを確認する。		<ul style="list-style-type: none"> ○次時への学習意欲が高まるよう、「津波が来た場合、私達の地域ではどのような危険があるか」「どこに避難するのか」などを問いかけ、防災マップをつくることを提案する。
津波が来ることを想定した防災マップをつくろう。			
			自身の意見を発表したり多様な意見を聞いたりすることを通して、災害時の行動を自分事として捉え、考えている。 【活動の様子・発言】

第4学年 小学校総合学習指導案

授業者 三保翔

1. 本時の実際（本時 1/1）

(1) 本時のねらい

自分の町のハザードマップから災害が起きた時の避難経路を考えることができる。

【思考・判断・表現】

(2) 学習過程

時間	学習活動	学習形態	○指導上の留意点 評価【評価の観点】[評価方法]
導入 10分	1, 他教科での学習を想起する。	全体	○児童の参加意識を高めることができ ように、社会科と道徳科での学習内 容を取り上げる。 ○児童が津波の危険性があることに気 が付くことができるように、ハザード マップを提示する。 ○
	2, 自分の地域のハザードマップを確認する。	全体	
	3, 本時の学習課題を確認する	全体	
学習課題 オリジナルの避難経路を考えよう。			
展開 18分 12分	4, オリジナルの避難経路を考える。	班	○児童がより詳細な避難経路を考える ことができるように、避難経路付近 の詳細な写真を用意する。 ○児童が発表しやすいように、ハザード マップに書き込める教材を用意す る。 自分の町のハザードマップから 災害が起きた時の避難経路を考 えることができる。 【思考・判断・表現】
	5, グループごとに発表する。	全体	
終末 5分	6, 振り返りをする。	個人	○振り返りの視点やポイントを提示す る。

教職員研修計画 【テーマ】「防災・安全教育」

近野 祥子

1、研修時期と時間設定

- ・ 4月ないし5月の放課後80分（短縮授業により時間を確保）
- ・ 救急隊員に協力を依頼

2、状況設定

- ・ 地震
- ・ 避難途中で心肺停止状態に陥った職員が発生

3、内容

- ① 危機管理に関する自身の状況をチェックする
- ② 学校の地理的状況を把握し、起こりうる災害リスクを考える
- ③ 地震発生時の動きを確認し、課題と改善策について協議する
- ④ AEDの設置位置と使い方を確認する

4、当日の流れ

導 入	<p>● 危機管理に関する自身の状況をチェックする（5分）</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p style="text-align: center;">チェックリスト ※「秋田県安全管理者指導者研修会」資料より一部抜粋</p> <p>◆ 自分の状況を振り返ってみましょう</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 学校の所在する地域のリスクやハザードを理解している <input type="checkbox"/> 自校の「学校安全計画」の内容を理解している <input type="checkbox"/> 事故や事件、自然災害が発生した時の対応を理解している <input type="checkbox"/> AEDを含む応急手当を行うことができる <input type="checkbox"/> 学校安全に関する資料を読んでいる（例：H31年3月発行の生きる力） <input type="checkbox"/> 「学校事故対応に関する指針」を理解している </div>																																												
展 開 ①	<p>● ハザードマップをもとに、本校のリスクを把握する（各自のPCを使用）（10分）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 地震 ・ 火災 ・ 津波 ・ 洪水 ・ 学校の標高や海岸線からの距離等を確認しよう 標高（ ）メートル 海岸からの距離（ ）キロ ・ 避難場所を確認しよう 第一避難場所（ ） 第二避難場所（ ） 																																												
展 開 ②	<p>● 本校「危機管理マニュアル」の「自衛消防組織」に基づき、実際の動きを確認する</p> <p>● 心配停止状態の職員への処置を行う（救護班）（20分）</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; margin-top: 5px;"> <thead> <tr> <th colspan="2">【自衛消防隊組織】</th> <th colspan="2">管理権限者：校長 隊長：副校長、副隊長：教頭</th> </tr> <tr> <th>部</th> <th>班</th> <th>集合場所</th> <th>任 務</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">本部</td> <td>指揮班</td> <td>昇降口外側</td> <td>全般の状況を把握し、各部に指示を与える</td> </tr> <tr> <td>通信連絡班</td> <td>昇降口事務室側前</td> <td>指揮班の指示により、各部への連絡にあたる</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">消防部</td> <td>消火班</td> <td>出火場所付近</td> <td>初期消火にあたる</td> </tr> <tr> <td>防火班</td> <td>保健室周辺</td> <td>消火の支援をし、可燃物の除去にあたる</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">搬出部</td> <td>搬出班</td> <td>昇降口</td> <td>校長室、職員室、事務室等の「非常持出」、その他重要機材の搬出にあたる</td> </tr> <tr> <td>監視班</td> <td>野球部屋内練習場</td> <td>搬出班の搬出した物品の監視や管理にあたる</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">避難救護部</td> <td>避難誘導班</td> <td>各フロア</td> <td>・ 避難コース、誘導場所を指示し、避難の誘導にあたる ・ 避難後の校舎残留者の確認</td> </tr> <tr> <td>救護班</td> <td>保健室</td> <td>負傷者、病人の救護にあたる</td> </tr> <tr> <td>警備部</td> <td>警備班</td> <td>昇降口ホール</td> <td>指揮班の指示により校内外の警備にあたる</td> </tr> <tr> <td>予備隊</td> <td></td> <td>昇降口事務室前</td> <td>指揮班の指示により各部の支援にあたる</td> </tr> </tbody> </table>	【自衛消防隊組織】		管理権限者：校長 隊長：副校長、副隊長：教頭		部	班	集合場所	任 務	本部	指揮班	昇降口外側	全般の状況を把握し、各部に指示を与える	通信連絡班	昇降口事務室側前	指揮班の指示により、各部への連絡にあたる	消防部	消火班	出火場所付近	初期消火にあたる	防火班	保健室周辺	消火の支援をし、可燃物の除去にあたる	搬出部	搬出班	昇降口	校長室、職員室、事務室等の「非常持出」、その他重要機材の搬出にあたる	監視班	野球部屋内練習場	搬出班の搬出した物品の監視や管理にあたる	避難救護部	避難誘導班	各フロア	・ 避難コース、誘導場所を指示し、避難の誘導にあたる ・ 避難後の校舎残留者の確認	救護班	保健室	負傷者、病人の救護にあたる	警備部	警備班	昇降口ホール	指揮班の指示により校内外の警備にあたる	予備隊		昇降口事務室前	指揮班の指示により各部の支援にあたる
【自衛消防隊組織】		管理権限者：校長 隊長：副校長、副隊長：教頭																																											
部	班	集合場所	任 務																																										
本部	指揮班	昇降口外側	全般の状況を把握し、各部に指示を与える																																										
	通信連絡班	昇降口事務室側前	指揮班の指示により、各部への連絡にあたる																																										
消防部	消火班	出火場所付近	初期消火にあたる																																										
	防火班	保健室周辺	消火の支援をし、可燃物の除去にあたる																																										
搬出部	搬出班	昇降口	校長室、職員室、事務室等の「非常持出」、その他重要機材の搬出にあたる																																										
	監視班	野球部屋内練習場	搬出班の搬出した物品の監視や管理にあたる																																										
避難救護部	避難誘導班	各フロア	・ 避難コース、誘導場所を指示し、避難の誘導にあたる ・ 避難後の校舎残留者の確認																																										
	救護班	保健室	負傷者、病人の救護にあたる																																										
警備部	警備班	昇降口ホール	指揮班の指示により校内外の警備にあたる																																										
予備隊		昇降口事務室前	指揮班の指示により各部の支援にあたる																																										
協 議 他	<ul style="list-style-type: none"> ● 部署ごとに課題と改善策について協議（10分） ● 各部署からの報告（10分） ● 救急隊員より、AEDの使用実演（15分） 																																												
ま と め	<p>管理職より総括（10分）</p> <ul style="list-style-type: none"> ● AEDの設置場所確認。緊急時は誰でも処置を担当する可能性がある。 ● 危機管理マニュアルは手近なところに置き、時折開いて自分の役割を確認しておくこと。 ● 管理職の不在時に災害が起こる可能性もある。声をかけ合い、チームで対応することが必要である。 																																												

〈 ①事前対応：防災・安全教育 〉

(起こってしまっても深刻なものにならないようにするための教職員向け校内研修プログラム)

【さいたま市教育委員会作成の「ASUKAモデル」を活用して ～緊急時の事故対応～】

1 ねらい

- ・ ASUKAモデルのきっかけとなった事事例等を基に、学校における迅速・的確な救命処置の重要性について学ぶ。
- ・ ASUKAモデルで示されている傷病者発生時の判断・行動について、実践的な訓練を通じて身に付ける。

2 研修会の流れ

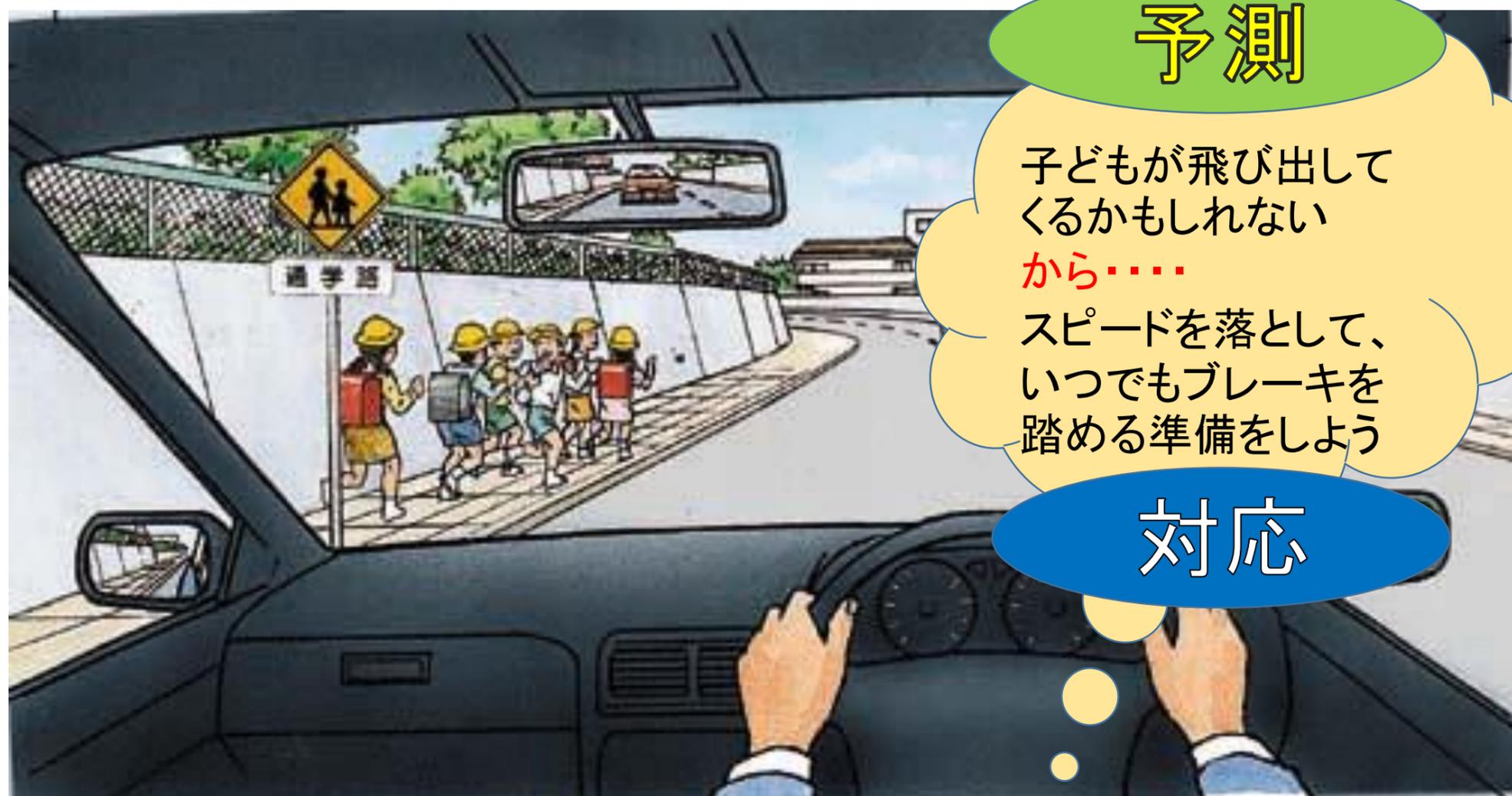
時間	内 容
5分 5分 5分	①ASUKAモデルの映像を見て、傷病者発生時の対応に関する知識を深める。 ②危機管理マニュアルの内容を確認する。映像で見たことを参考に、自校で重大事故が発生した場合にどのような対応をすればよいのか、事前にどのような確認が必要か等をグループで協議する。 ③協議内容を全体で共有する。
30分	④AEDの使用法、心肺蘇生法、担架の使い方などを体得する訓練を実施して、これらの方法を身に付ける。⇒消防機関に指導員の派遣をお願いし、実技内容等について相談しておく。
20分	⑤課題を基に、危機管理マニュアルに基づいて、重大事故が発生した場合の実際の動きを確認するための対応訓練を行う。 <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> (課題) 7月下旬、ある暑い日の休み時間、小5の男子児童は友達と体育館で鬼ごっこをして遊んでいた。鬼だった児童が突然しゃがみ込み、床にうずくまってしまった。友達が声をかけたが、「頭が痛い、気持ち悪い」と言い、立ち上がれない様子だった。友達は職員室にいる担任の先生を呼びに行った。 </div> ☆配役を決める <ul style="list-style-type: none"> ・男子児童(被災者) ・鬼ごっこをしていた友達数名 ・担任の先生を呼びに行った友達(第一発見者) ・体育館で遊んでいた他学年の児童数名 ・その他の教職員数名 ・養護教諭 ・消防機関(119番通報を受信する)役 ・救急隊員(救急車で到着)の役 ○進行役の合図で訓練開始 →「被災者」役と第一発見者役は、課題の設定に従い、その様子を演じる。それ以外の参加者は、それぞれの役に応じて危機管理マニュアル等に定められた対応に従って模擬的に行動する。 ○一連の対応が終わったら、「振り返りシート」を用いて振り返りをする。 →役を演じた職員の感想等を全体で共有する。
	⑥消防署の方から講評(指導・助言)をいただく。
	⑦校長から

防災・安全教育

(学校危機管理の現状と課題)

いぶりがっこ班

1. はじめに



予測

子どもが飛び出してくるかもしれない

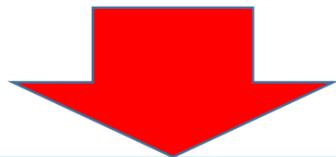
から……

スピードを落として、
いつでもブレーキを
踏める準備をしよう

対応

事故を未然に防止するためには・・・

①危険を予測する



②危険に対応（準備や排除、改善）する

未然防止には「予測」が必要不可欠！

2.子どもたちの様子

○危険を予測する力が不足・・・

例：ろうかを走って、曲がり角でぶつかる
彫刻刀やハサミで指を切る
車にひかれそうになる

etc...



いろいろな事故が学校内外で起きている。

3. 単元を通して…

身の周りの危険を予測する力を育成する。

4. 単元について

3年生 社会科

安全なくらしを守るために

単元の目標

- (1) 自分たちが住んでいるまちの様子を的確に観察、調査したり、具体的資料を活用したりして、必要な情報を集めて読み取ったり、まとめたりすることができる。 【知識・技能】
- (2) 自分たちが住んでいるまちの様子や危険な場所について考え、まとめた資料をもとに危険マップを作成し、表現することができる。 【思考力・判断力・表現力】
- (3) 学習したことをもとに地域や自分自身の安全をまもるために自分たちにできることを考えようとしている。 【学びに向かう力・人間性等】

5. 本時の内容(1・2時間目)

導入 ①身の周りの危険について話しあう。(全体)

- ・学校の前の横断歩道は信号がなくて、**車**どおりが多いから怖かった。
- ・お父さんが「あそこは**熊**が出るから、近づくな」と言ってたよ。
- ・昔、川で**水の事故**があったと聞いたよ。

など

②めあてを確認する。(全体)

めあて

みんなが安全に生活できるように、
「T小安全生活マップ」をつくろう。

展開 ①テーマを出し合う。(全体)

車

不審者

水

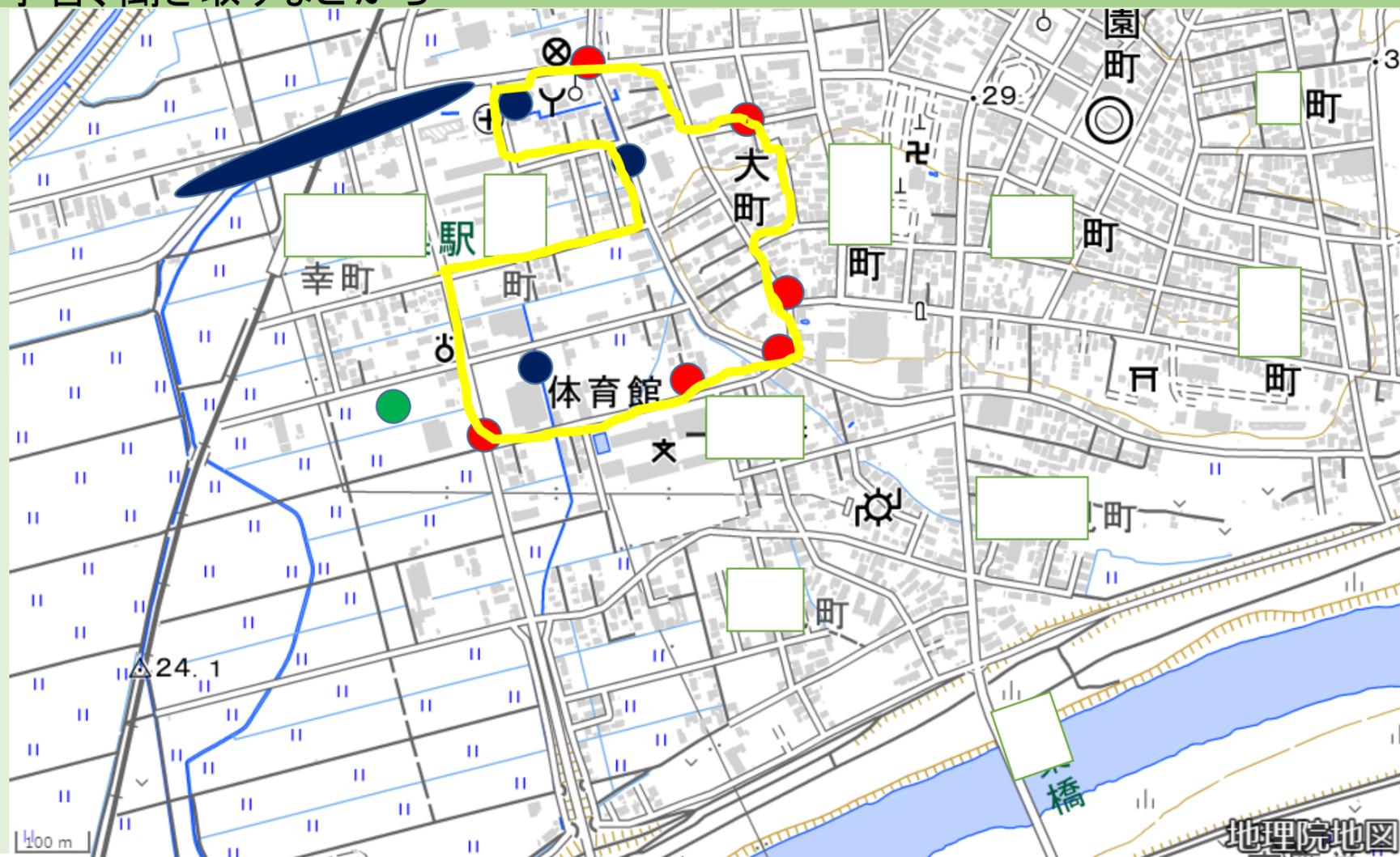
(用水路・池・川)

熊

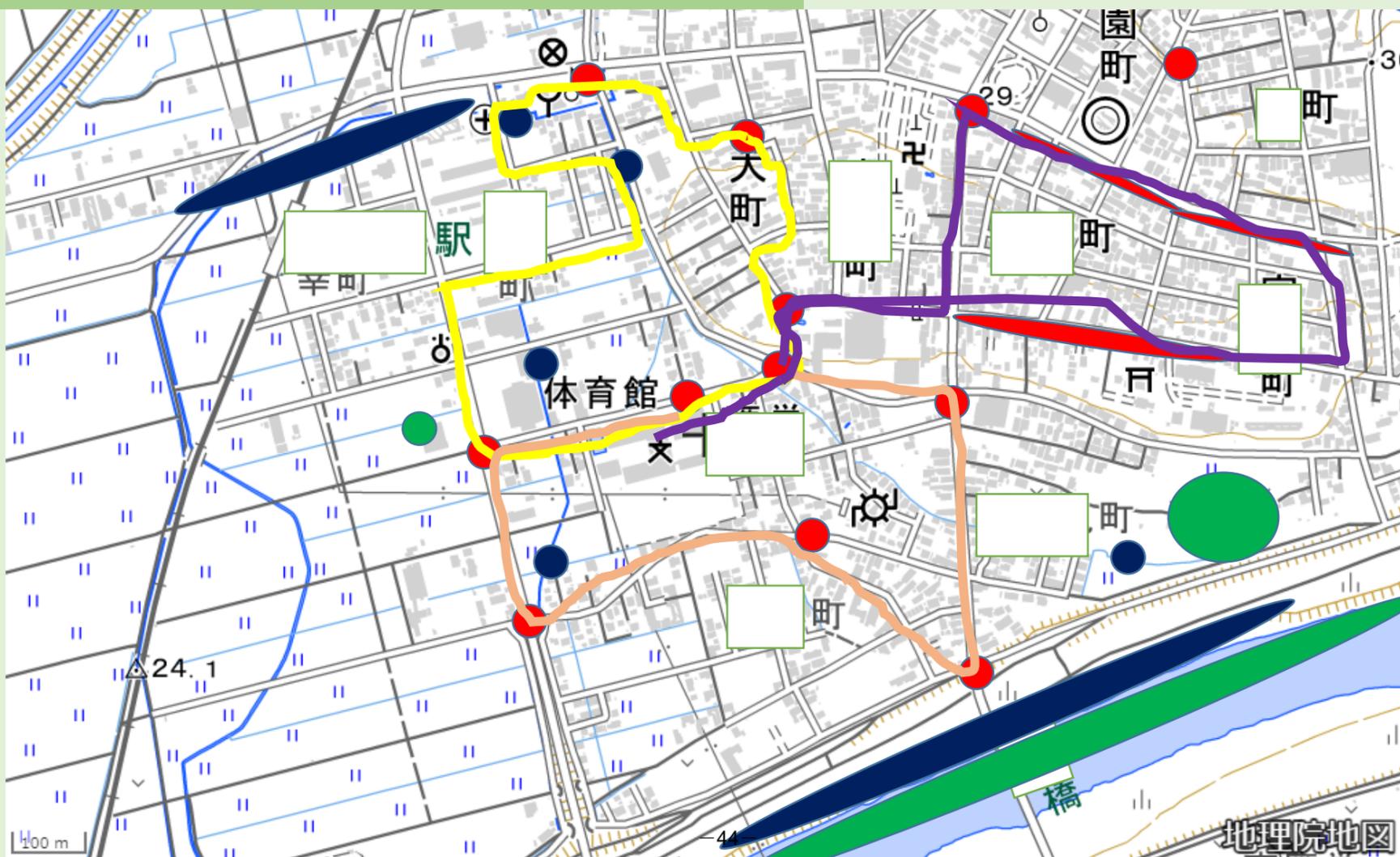
② ①で出たテーマについて、各班の探検コースで危険だと思った場所に丸をつける。(班)

～調べ学習、聞き取りなどから～

● 車 ● 水 ● 熊



③各班の丸を一つの地図にまとめる。



6. 本時の後の展開

3/10時間目～6/10時間目

①探検コースにそって町を探検し、印の場所やそのほかの危険だと思ふ場所の写真撮る。



見通しが
悪い横断
歩道



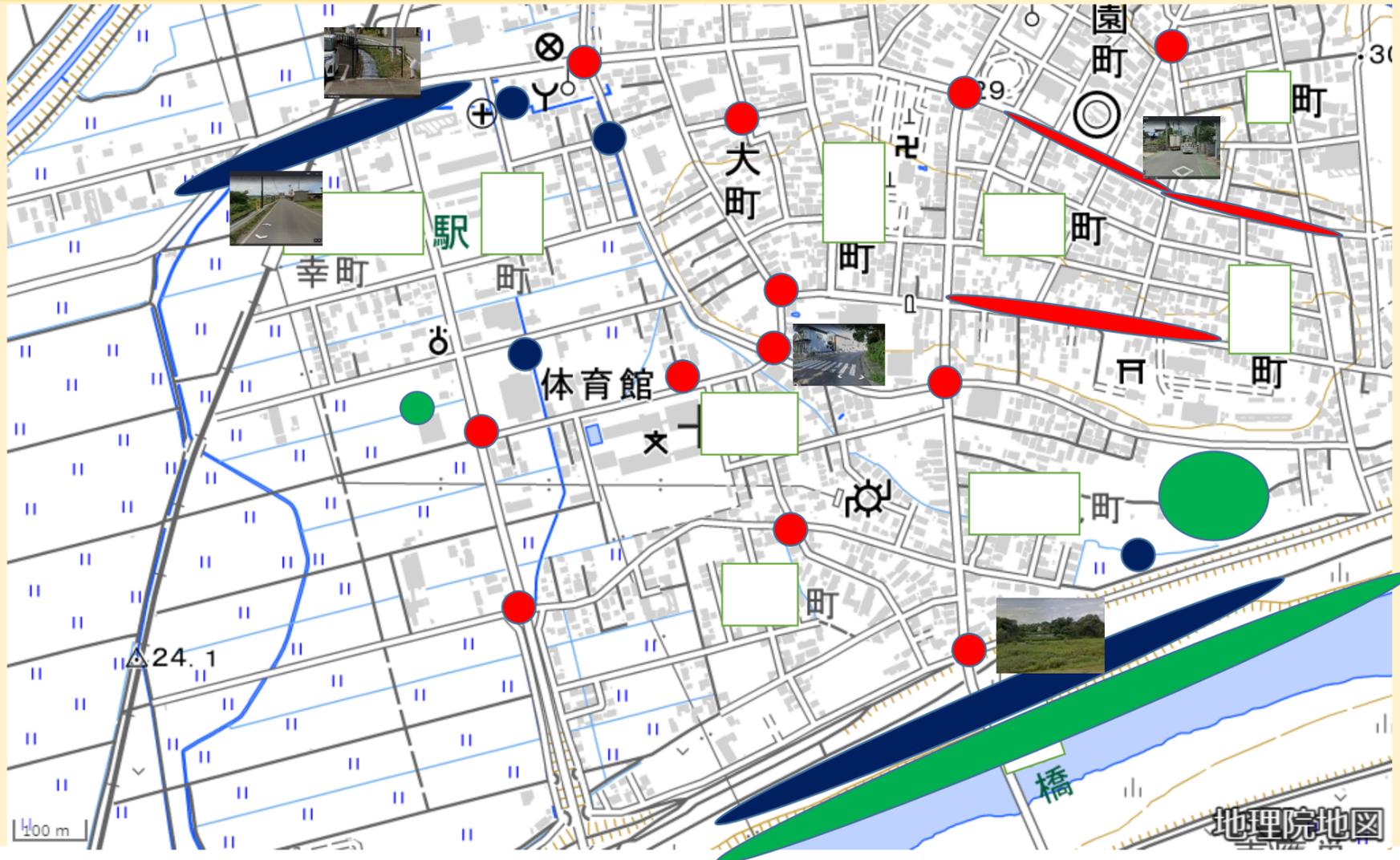
水深が
深い水路



狭い通学路



②写真を地図に貼り、安全マップの完成



7/10時間目と8/10時間目

- ・班ごとに発表練習
- ・マップを練り上げる



9/10時間目と10/10時間目

- ・1年生に対して発表
- ・単元を通しての振り返り



「T小安全生活マップ」を作成することから・・・

身の周りには危険が潜んでいることを実感し、
危険を**予測**することができるようになってほしい。

いぶりがっこ【事前対応：防災・安全教育】

(起こらないようにする、または起こっても深刻なものにならないようにするために)

第2学年 国語科学習指導案

1 単元名 多様な方法で情報を集めよう 「安全マップを作る」

2 単元の目標

(1)情報と情報との関係の様々な表し方を理解し、使うことができる。

【知識及び技能(2)】

(2)資料を用いて、自分の考えが分かりやすく伝わるように表現を工夫することができる。

【思考力、判断力、表現力等A(1)ウ】

(3)自分の地域を見つめ直し、「安全マップ」を作ろうとしている。

【学びに向かう力・人間性等】

3 単元計画(5時間／11時間)

時	学習内容	教科との関連
1	《課題設定》 ○「学区安全マップ」を見て、気付いたことを話し合おう。 ○クマの出没や被害に関する記事を調べよう。	社会
2	《情報収集1》	国語
3	○クマ、川の氾濫、交通事故に関する記事を調べよう。	社会
4	○クマや水害、交通安全に関する知識を身に付けよう。	理科
5	《情報収集2》	国語『安全マップを作る』
6	《情報の整理・分析》	
7	○クマの被害や交通事故を減らすこと川の氾濫に備え、日頃から気を付けることは何か考えよう。	
8	○自分の意見を「学区安全マップ」に表現しよう。	
9		
10	《まとめ・表現》 ○自分の意見を「学区安全マップ」に表現しよう。	
11	《発表・ふり回り》 ○「学区安全マップ」の交流をして、感想を伝	

	え合おう。 ○「学区安全マップ」の学習をふり返ろう。	
--	-------------------------------	--

4 本時の展開

(1)ねらい

クマの被害や川の氾濫、交通事故等の情報を生かして、自分の考えが分かりやすく伝わるように、「学区安全マップ」の作成において表現を工夫することができる。

(2)本時案

時間	学習内容	教師の支援
導入 5分	1 「学区安全マップ」を作る目的を確認する。	○目的に沿ったマップを作ることができるように、誰に、どんな安全のために作るのか確認する。
	めあて 目的に合った「学区安全マップ」を作るために、情報を整理しよう。	
展開 20分	2 「学区安全マップ」を作る手順を確認し、集めた情報を分類・整理する。	○情報を分類・整理しやすくするために図や記号、表を用いたり、タブレットを活用したりすることを説明する。 ○情報の信頼性を高めるために、出典や引用を明記するよう助言する。
10分	3 分類・整理した情報について自分の考えを書く。	○目的から逸れないようにするために、自分の考えを書くことを促す。
10分	4 どの情報を使うか考え、マップの構成を考える。	○構成を考えやすくするためにタブレットで作成することを説明する。 ○はじめから構成を考えるのが苦手な生徒のために、マップのデータを用意し共有する。
終結 5分	5 次時の活動の説明を聞き、見通しを持つ。	○マップの完成に向けて見通しを持つことができるように、今日の活動をふり返るとともに、今後の取組を説明する。

第3学年 社会科

K市立T小学校
3年1組
授業者 佐藤 大星

1 単元名 安全なくらしを守るために

2 単元の目標

- (1) 自分たちが住んでいるまちの様子を的確に観察、調査したり、具体的資料を活用したりして、必要な情報を集めて読み取ったり、まとめたりすることができる。 【知識・技能】
- (2) 自分たちが住んでいるまちの様子や危険な場所について考え、まとめた資料をもとに危険マップを作成し、表現することができる。 【思考力・判断力・表現力】
- (3) 学習したことをもとに地域や自分自身の安全をまもるために自分たちにできることを考えようとしている。 【学びに向かう力・人間性等】

2 単元計画

時間	活動内容	指導上の留意点や評価基準
2時間 本時	<p>めあて みんなが安全に生活できるように、「T小安全生活マップ」をつくろう。</p> <p>・地域の危険な場所について、調べ学習や話し合いを通して地図にまとめる。</p>	<p>評価 地域の危険な場所について考え、地域の地図と関連付けながらまとめている。 【知識・技能】 (ワークシート、対話)</p>
4時間	<p>・探検コースに沿って町を探検し、前時で印をつけた場所の写真を撮る。</p> <p>・写真を地図に貼り、「T小安全生活マップ」を完成させる。</p>	<p>○事故無く探検できるよう、車等に最大の注意を払いながら探検するよう促す。</p> <p>○探検している中で新しい危険に気づくことができるように促す。</p>
2時間	<p>・まとめた「T小安全生活マップ」を使って、グループごとに発表練習をする。</p> <p>・「T小安全生活マップ」を推敲する。</p>	<p>評価 まとめた地域の地図を使って、地域の危険な場所について分かりやすく表現している。</p> <p>【思考力・判断力・表現力】 (話し合いや発表の様子)</p>
1時間	<p>・「T小安全生活マップ」を使って1年生に発表する。</p>	<p>【思考力・判断力・表現力】 (話し合いや発表の様子)</p>
1時間	<p>・単元を振り返り、安全に過ごすために自分でできることを考える。</p>	<p>評価 学習したことをもとに地域や自分自身の安全をまもるために自分たちにできることを考えようとしている。 【学びに向かう力・人間性等】 (振り返りの内容)</p>

3 本時の計画 3年生社会

(1) ねらい 地域の危険な場所について考え、情報を整理しながら、地域の地図と関連付けてまとめることができる。 【知識・技能】

(2) 学習過程

段階	学習活動	形態	指導の手立てと評価
導入 15分	<p>1 登下校や地域で遊んでいる時、危ないと思ったことやその場所について話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校の前の横断歩道は信号が無く、車どおりが多いから怖かった。 ・お父さんが「あそこは熊が出るから、近づくな」と言ってたよ。 ・昔、川で水の事故があったと聞いたよ。 <p>2 めあてを確認する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;"> めあて みんなが安全に生活できるように、 「T小安全生活マップ」をつくる </div>	全体	<p>○危険な場所について、多くの意見を出すことができるように、前日に保護者から地域の危険な場所について聞いてくるよう促す。</p> <p>○危険な場所を思い出すことができるように、地域の地図やGoogle Earthなどを用いて視覚的な支援を行う。</p> <p>○3を効率的に行うことができるように、出た意見について、似たような内容同士をまとめて板書する</p> <p>○ねらいを意欲的に達成できるように、単元の最後の時間に一年生に発表する時間があることを伝える。</p>
展開 70分	<p>3 「車」「水」「熊」「不審者」などテーマを出し合う。</p> <p>4 班の探検コースの危険な場所を調べる。 (各班がそれぞれの探検コースの車、水、熊、不審者などについて調べる。)</p> <p>5 探検コースの地図を見て、危険な場所に印をつける。</p> <p>6 班ごとに発表し、危険な場所の印をひとつの大きな地図にまとめる。</p>	全体 班 班	<p>○端的な言葉を用いてテーマを出すよう促す。</p> <p>○危険な場所をたくさん見つけることができるように、他の班にアドバイスを参考にすることや、ネットで情報を集めることをすすめる。</p> <p>○印がどのテーマの危険か分かるように、テーマごとに色分けをしてまとめるよう促す。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;"> <p>評価 地域の危険な場所について考え、情報を整理しながら、地域の地図と関連付けてまとめている。 【知識・技能】(ワークシート、対話)</p> </div> <p>○身の周りの危険を自分事として考えることができるように、よく行く場所や、家の周りなどに注目させ、危険マップを見るよう促す。</p>
まとめ 5分	<p>7 振り返りを行う。</p>	個	<p>○次回の活動では危険な場所について意識して探検することができるように、本時で出たテーマを再確認するよう促す。</p>

小学校 第5学年 A組 特別活動学習指導案

カリキュラム・授業開発コース 新山壮一郎

1 単元名 「災害から命を守る」

2 単元の目標

様々な災害が起こった際に、素早く行動し、自分の身の安全を確保することができるようにする。

3 本時の実際 (1 / 2)

(1) ねらい 様々な災害について、どのような危険があるのかを知り、自分が取るべき行動を考えることができる。【思考・判断・表現】

(2) 学習過程

時間	学習活動 ・予想される児童の反応	学習 形態	○教師の支援 評価規準【観点】[方法]
導入 3分	1. 災害にはどのようなものがあるか考え、発表する。 ・地震、津波 ・雪害 ・水害 ・火災	全体	○児童が様々な災害の様子をイメージすることができるように、写真を提示する。 ○児童本人や家族が実際に被災している場合もあるため、各家庭の状況を把握し、プライバシーに配慮する。
	2. 本時のめあてを確認する。	全体	○学習に向かう児童の関心が高まるように、様々な疑問を引き出す。
めあて 災害について調べ、災害が起きたときの行動を考えよう。			
展開 37分	3. 災害について調べ、班で共有する。 ・火災の際には、煙も危ないようだ。 ・地震が起きた場合、海の近くでは津波にも注意しないとイケないよ。 ・秋田では雪による危険も多いみたいだね。	個人 ↓ 班	○児童が調べた災害の情報を正確に読み取ることができるように、災害の種類、発生場所、規模、危険な点などの着目する視点を明示する。 ○児童が調べる活動を円滑に進めることができるように、タブレットを活用する。
	4. 調べたことを基に、1つの災害を想定し、自分がとるべき行動やあらかじめ必要な備えを考え、班で共有する。(想定する災害は、班で統一する) ・学校にいるときに地震が起きたら、机の下に隠れて放送の指示に従い、避難するよ。 ・火災の際には、ハンカチで口をふさぐから、ハンカチはいつも忘れないようにしたいね。	個人 ↓ 班	○児童が考えやすいように、場所や時間、天気、状況などは自由に考えるよう促す。 ○教師からのアドバイスや質問により、考える際に必要な視点が見つけられるようにする。 ○発表の際、全体で共有しやすいように、各班にホワイトボードを渡す。
	5. 班ごとに意見をまとめ、全体で発表する。	班 ↓ 全体	調べたことを基に、災害が起きたときの行動を考えることができる。【思考・判断・表現】[観察, ノート, 発言]
	6. 4, 5の活動を通して、考えたことや疑問に思ったことを発表し合う。 ・学校にいるときに災害が起きて、放送がない場合にはどうすればよいのだろう。 ・知らない場所にいるときに災害が起きたらどうすればよいのだろう。	個人 ↓ 全体	○児童から出てきた考えや疑問を今後の学習に生かすことができるように、全体で共有する。
まとめ 5分	7. 本時の振り返りを行う。 ・災害が起きた時のためにも、日々の備えがとても大事なのではないかと考えた。 ・自分で行動を考えてみたが、実際にはどのような行動を取ればよいのだろうと思った。	個人	○児童が今後の学習に意欲をもてるように、「考えたこと」や「疑問に思ったこと」という振り返りの視点を明示する。 ○児童が今後の学習に意欲をもてるように、次回の活動について簡単に説明する。

「事後対応（心のケア）」に対する研修会について

近野勇雄

1. ねらい

災害等に遭遇すると、恐怖や喪失体験などの心理的ストレスによって、心の症状だけでなく身体症状も現れやすいことが子どもの特徴であり、こういったストレス症状には、年齢を問わず見られる症状と、発達段階によって異なる症状が含まれるとされている。心のケアのために適切な知識やその全体像を知っておくことで、子どもに対するサポートやケアをより適切に行えることから、研修会を通して子どもの「心のケア」について教職員全体で共有し、災害発生後の子どもたちの心理面の安定を図ること、そして安心して学校生活を送れる環境を整えることをねらいとする。

2. 研修の実際 ※数日間の休校があることを想定。

(1) 1回目（状況が落ち着いた頃に実施）

時間	研修の流れ（60分）
5分	1. 研修のねらいと流れを確認する。
35分	2. 災害時等におけるストレス症状について知る。（講師：学校医） (1)子どものストレス症状の特徴 (2)急性ストレス障害 (3)心的外傷後ストレス障害
15分	3. 心のケアの体制について確認する。（担当：教頭，養護教諭） (1)教職員の役割と校内における連携 (2)関係機関等との連携
5分	4. リフレクションを行う。

(2) 2回目（学校再開前に実施）

時間	研修の流れ（60分）
5分	1. 研修のねらいと流れを確認する。
50分	2. ストレス症状のある子どもへの対処方法を知る。（講師：スクールカウンセラー） (1)基本的な対処方法 (2)健康観察のポイント (3)心のケアの進め方 (例) 子どもにリラクセーションを教える。 「セルフ・リラクセーション」と「ペア・リラクセーション」
5分	3. リフレクションを行う。

3. 参考

「学校における防災教育の手びき」2013 秋田県教育委員会

「学校における子供の心のケア—サインを見逃さないために—」平成26年3月文部科学省

③災害・事件・事故後の児童生徒への「心のケア」に関する研修

〇〇支援学校 生徒指導部

1 ねらい

近年、地震や豪雨などの自然災害や、児童生徒が犯罪に巻き込まれる事件・事故などが多発している。児童生徒が、災害等に遭遇して強い恐怖や衝撃を受けた場合、その後の成長や発達に大きな障害となることがあり、災害後の児童生徒の「心のケア」は重要な課題となっている。

災害や事件・事故発生時における児童生徒（教職員）の心のケア、その体制づくり、危機発生時における健康観察の進め方に加え、対処方法等について理解が深められる研修とする。

2 日 程 1回目：令和〇年〇月〇日 15:20～16:20
 2回目：令和〇年〇月〇日 15:20～16:20

3 場 所 会議室

4 参加者 全教職員

5 内 容

1回目 心のケアの意義・体制づくり

講師：〇〇市保健センター 心理士 △△△△

1 心のケアの意義

- ・問題の早期発見、適切な対応と支援の重要性

2 災害や事件・事故発生時における心のケアの基本的理解

- ・災害や事件・事故発生時におけるトラウマ、ストレス症状、児童生徒への対応、留意点

3 心のケアの体制づくり

- ・心のケアの体制づくりの必要性
- ・組織体制の充実を図るための留意事項
- ・心身の健康問題への組織的な対応の進め方
- ・心の健康問題の対応における教職員等の役割

4 関係機関等との連携

- ・関係機関等との連携の必要性と留意点
- ・主な診療科とその内容

5 リフレクション

6 講師より指導助言

2回目 心のケアに関する演習

講師：〇〇市保健センター 心理士 △△△△

1 災害等発生後における健康観察の進め方

- ・日常の健康観察の重要性
- ・危機発生後における健康観察のポイントと留意点
- ・心身の健康状態に関する質問紙調査票の活用方法及び留意点
- ・心とからだのチェックリスト
- ・心のケアの方法（セルフ・リラクゼーション、ペア・リラクゼーション）

2 演習 子どもの心のケアに関する対応

※5グループ（1グループ5人）に分かれて演習を行う

- 事例1 大地震後、不安症状からよく眠れなくなった事例（小学部4年生女子）
- 事例2 自宅火災後、突然泣き出すことが多くなった事例（中学部1年生男子）
- 事例3 交通事故後、「交通事故ごっこ」を繰り返すようになった事例（中学部2年生女子）
- 事例4 不審者事件後、危険な言動が多くなった事例（高等部3年生男子）
- 事例5 大地震の3年後、リストカットを行うようになった事例（高等部1年生女子）

3 リフレクション

4 講師より指導助言

1 題材名 「復興への願いをこめて」

2 単元の目標

- ①災害によって傷ついた自分のこととの向き合い方を考える。
- ②絵馬作成を通して、復興への前向きな気持ちを持つ。

3 単元設定

秋田県全域に甚大な被害を及ぼした△△地震発生から1年、慣れない生活環境や友人の死、転校など児童のストレスは計り知れない。大塚ほか(2020)によるストレス尺度を用いて児童の心理状態を確認したところ、「ちょっとしたきっかけで、思い出したくないのに、思い出してしまう」「こわくておちつかないことがある」と感じる児童が多くみられた。このことから、ストレスとうまく向き合うことができている児童が多いということが示唆される。また、復興に向け前向きな感情を抱いている児童が少ないことが示唆される。復興の担い手として、ストレスとの向き合い方を模索し、気持ちを前向きにすることが必要であると考え、本単元を設定した。

4 指導計画 (前6時間)

時数	学習活動 (・予想される児童の反応)	形態	指導の手立てと評価
3 時間	<p>「ストレスとの向き合い方」</p> <p>1. 自分の心を模したキャラクターを書く。</p> <p>2. そのキャラクターが最近感じている嫌なことを書き出す。 ・最近よく眠れないよ～。 ・普段とは違うおうちが嫌だな。 ・前みたいに楽しく遊ぶ場所がないな。</p> <p>3. 学習活動2で書いた内容を発表する。</p> <p>4. 学習活動2で行った活動は「コーピング」という活動であると知る。</p> <p>5. コーピングについて、本やインターネットで調べる。</p> <p>6. 日常生活でできそうなコーピング方法を話し合う。 ・呼吸を整えるのは簡単にできそうだね。</p>	<p>個人</p> <p>個人</p> <p>全体</p> <p>全体</p> <p>ペア</p> <p>全体</p>	<p>○客観的に自分の心を整理するために、自分の心をキャラクターとして表現させる。</p> <p>○嫌なことを表現しやすいように、キャラクターのセリフとして書き出させる。</p> <p>○事前アンケートの結果を踏まえ、心理的に配慮が必要な児童を見極めておく。</p> <p>○発表しやすい雰囲気を作るため、教員が先に発表する。</p> <p>○自分だけでなく多くの人が不安を感じていることを認識するため、似ている発表同士をまとめる。</p> <p>○本が足りず、インターネット環境が復旧していない場合は、教師が関連資料を用意する。</p>
3 時間	<p>「復興に向けて」</p> <p>1. 一年後、自分の住む町はどうなっているか考え、発表する。</p> <p>2. 自分の願いを表現するものとして「絵馬」があるということを確認する。</p> <p>3. 絵馬の作成方法を確認し、絵馬を作成する。</p> <p>4. 作成した絵馬を紹介し合い、良いと思った点を発表する。</p> <p>5. 今、心のキャラクターはどのようなセリフを話しているのか書く。</p>	<p>全体</p> <p>全体</p> <p>個人</p> <p>グループ</p> <p>個人</p>	<p>○クラスの全員が、復興を願っていることを確認する。</p> <p>○学習活動1を踏まえて、どんな願いを絵馬に表したいかイメージさせる。</p> <p>○絵の得意不得意は評価に関係しないことを確認する。</p> <p>○すべての絵馬に対し、ポジティブな感想を言うように指導する。</p>

○参考文献

- ・被災児童の心のケアに向けた復興絵馬プロジェクトの効果—仙台市立七郷小学校における7年間の取り組み
近藤 祐一郎, 亀崎 英治, 篠原 良太, 森田 健一, 袋地 知恵 (2020)
- ・平成28年(2016年)熊本地震後における心のケアと防災教育で活用する小学生版ストレス尺度の検討
大塚 芳生, 田上 法子, 富永 良喜 (2020)

1 単元名

事件や災害後の心や体の変化

2 単元の目標

突然の災害や事件が起こった時、心や体にどんな変化が起こりやすいか理解し、どのように対処したらよいか理解を深め、生活に生かすことができる。

3 単元設定

本年11月末に発生した、4年1組に刃物を持った不審者の校内侵入事件から10日が経過。犯人逮捕、学校警備体制の強化が行われたが、最近、大きい音に過剰に反応したり、外の様子を気にしたりする児童の様子が見受けられる。内閣府による「被災者のこころのケア —都道府県対応ガイドライン—」(平成24年3月)第3章より、子どもは大人と異なり、自分の状態を客観的に把握することが困難であるため、子どもの心のケアはこうした特性を理解した上で行うことが重要である。このことから、不審者による事件も災害同様ストレス反応に対し向き合い方や対処法を学ぶ必要があると考え、本単元を設定した。

4 指導計画 (全2時間)

時数	学習活動	形態	教師の支援
1	1. 事件や災害後に起こる問題について学習することを 知る。 2. 事件や災害を経験することで、心や体に「変化 が現れ、ストレス反応が起こることを理解する。 3. 災害の後に起こる心や体の変化について考える とともに、怖い体験などをした後、心や体に変化 が起こりやすくなるのは、自然なことである ことを理解する。 4. 対処方法について考える。 5. 災害にあった人に対して、私ができる支援の方 法や留意点について考える。	全体 全体 班 全体 個 班 個	○今回の不審者事件により、児童らが災害後と 同じストレスを抱えていることを伝える。 ○実際に体験したことだけでなく、目撃するこ とでも、心が傷つくことがあることを説明する。 ○ワークシートを配布し、心や体にどんな変 化があるのかグループで話し合わせ、その結 果を発表させる。 ○スライドの絵をヒントに、 ・どんな対処法があるか ・相談する方法 ・自分に合っていると思う方法 を考えるよう促す。 ○事件にあった人と接するときに留意する点 について説明する。
2	1. 前時の内容を全体で共有する。 2. セルフケアについて知る。 3. 実際にリラックス呼吸法や肩・上半身のリラッ クス法をやる。 4. 体ほぐしの運動をする。 5. 本時の内容を振り返る。	全体 全体 全体 班 全体 個 全体	○1・2組合同で行い、理解を図る。 ○自分が自分のためにできることについて、ス ライドを提示しながら説明する。 ○流れをつかみやすいよう、スライドを提示し、 流れを説明しながら、手本を示す。 ○活動内容をつかめるよう、スライドを提示し ながら「友達とのおしゃべりジョギング」のル ールを説明する。 ○振り返りカードに記入した内容から、発表者 を意図的に指名する。

○参考文献

・内閣府. 「被災者の心のケア 都道府県対応ガイドライン」.(平成24年3月)

<http://www.bousai.go.jp/taisaku/hisaisyagyousei/pdf/kokoro.pdf>

・茨城県教育委員会. 「災害時の子どもの心のケアについて」.

<https://www.edu.pref.ibaraki.jp/board/gakkou/karada/bousai/ptsd/index.html> (参照 2021-12-9)

単元名 自分の気持ちを言葉にしよう

1 単元の目標

気持ちを言葉にして表すことで、事故を客観的にとらえ、自分の気持ちを整理することができる。

3 単元設定

クラスの児童が巻き込まれる事故が起きてから3週間経った。表面上は普段通りの様子に近づいてきた児童たちだが、いまだに事故のショックやストレスは相当大きなものだと考える。自分の状況を客観的に把握することが難しいという子どもの特性も踏まえ、児童が事故を客観的にとらえ、自分の気持ちを整理することを目的として本単元を設定した。

4 本時の実際 (1/1)

(1) ねらい

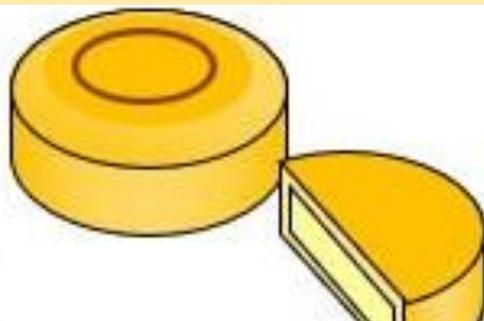
起こった事故を客観的にとらえ、自分の気持ちを整理することができる

(2) 学習過程

時間	学習活動 ・予想される児童の反応	形態	○教師の支援 評価 [評価の方法]
導入 7分	1 起こってしまった事故の事実を確認する ・なんでこんなことになってしまったんだろう、いまだに信じられない。 ・つい最近まで一緒に遊んでいたのと思うと苦しくなる。	全体	○児童の感情を必要以上に刺激しないように、事故として起こった事実のみを共有する。
展開 33分	2 めあてを確認する		○児童が感じている気持ちを素直に表現できるように、教師自身が今回の事故で複雑な思いを感じていることを共有する。
	めあて 自分の気持ちや思いを言葉にしよう		
	3 自分の感じている思いや気持ちを文章にする	個	○児童が自分の感情を素直に書き表すことができるように、文章が支離滅裂でも内容が重複してもよいこと、クラス内では書いた内容を共有しないことを確認する。
	4 文章を書いた感想を共有する	班	○文章にして、自分の中で変化した感情や気持ちがあれば共有するように伝える。
終末 5分	5 本時の活動を振り返る	個	○児童が素直に気持ちを言語化しやすいように、児童の素直な感想を書いてほしいことを伝える。
			起こった事故を客観的にとらえ、自分の気持ちを整理できている。 <div style="text-align: right;">[ノート・発言]</div>

④復旧対応：復興のための地域づくりプランのための校内研修会

「T中学校地域を元気にし隊！発動」(案) に向けての校内研修会



きんまんチーム

大塚邦子

④ 研修の目的

全職員が復興に向けた活動の意義を共通理解し、子どもたちに身に付けさせたい力や具体的な指導内容について議論を行うことで、今後チームとして復興教育に取り組んでいくという意欲や連帯感を高める。

④ 災害の設定状況

十和田火山の噴火により、住居や農地が火山灰で覆われ、住民は不便な生活を余儀なくされている。T中学校地区では、怪我人等は出ていないが、農業や商業は打撃を受け、県外との交流も少なくなった。災害から1カ月が経過したが、自宅に住むことができない人たちは未だ避難所で生活している。

⑤ 研修の概要

東日本大震災後の復興教育の実践例を聞き、復興教育の意義について共通理解を図る。

また、復興に向けて中学生が行う活動を通して、身に付けさせたい力は何かについて、学校教育目標をもとにしてワールドカフェスタイルでグループワークを行う。

最後に、その力を身に付けるための実際の活動について、中学生の立場になっていろいろなアイデアを出し合う。オープンエンドとする。

これらの活動を通して、職員全員で復興教育に向けての活動を始めていくのだという意識を高めていく。

⑤ 事前準備

司会進行（教務） 渉外（教頭） 協議進行（研究主任）

教頭は、実践例のゲストティーチャーと事前に連絡をしておく。

研究主任は、職員を3つに分け、各グループ1名ファシリテーターを決めておく。

⑤ 研修参加者 中学校全職員（事務職員や栄養教諭等含む）

⑤ 研修時間 夏季休業中の午前中（2時間程度）
災害が起きてから1か月後位と想定

金 研修会内容

- (1) はじめに（校長）
- (2) 研修会の目的と概要説明（教頭）
- (3) 実践例の紹介（ゲストティーチャー）
休憩
- (4) 協議「子どもたちに身に付けさせたい力」について
休憩
- (5) 演習「T中学校地域を元気にし隊！発動（案）」について
- (6) リフレクション
お疲れさまでした！

金 (3)実践例の紹介

講話

「復興教育が育てる子どもに身に付けさせたい力とは」

ゲストティーチャーに、ZOOMを利用して、復興教育の実践例を紹介していただく。いわての復興教育について、東日本大震災後に岩手県が行っている復興教育について事例を交え講話をしていただく。

参考資料 [岩手県 - いわての復興教育 \(pref.iwate.jp\)](http://pref.iwate.jp)



「いわての復興教育プログラム」初版



いわての復興教育副読本
「いきる」「かかわる」「そなえる」
小学校 低学年用

④(4)協議 子どもたちに身に付けさせたい力について

①復興教育を通して、T中学校の子どもたちに身に付けさせたい力について、学校目標「心豊かな、創意に富んだ、たくましい生徒の育成」をもとに、3つのグループ（A 心豊かな、B 創意に富んだ、C たくましい）に分かれて話し合う。

「心豊かな」

- ・避難所の人たちと話すことで「思いやり」が育つ。
- ・活動で地域の人たちに頼りにされることで「自己有用感」が育つ。

ファシリテーターが模造紙に内容をまとめる。

ファシリテーターに字や絵のうまさは関係ない。話合いの内容についてどんどん書き込むことが大切。

④(4)協議 子どもたちに身に付けさせたい力について

②ファシリテーターを残し、グループを分散し、ファシリテーターが説明後、さらに話し合いを行う。（ワールドカフェ方式）

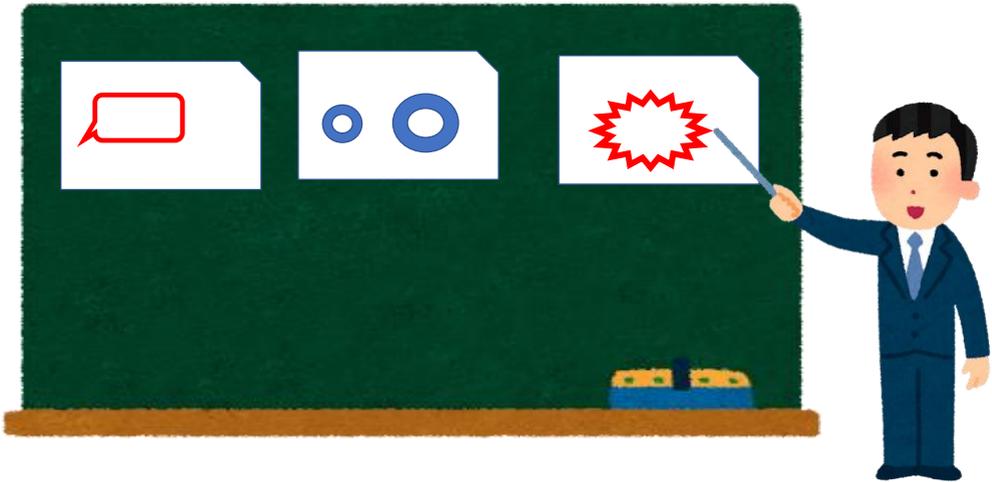
「心豊かな」

- ・避難所の人たちと話すことで「思いやり」が育つ。
- ・活動で地域の人たちに頼りにされることで「自己有用感」が育つ。
ふるさとを大切にしたい→なんとかしたい
- ・地域の人をたくさん知り、郷土を愛する気持ちが育つ

ファシリテーターが続けて書き込みを増やしていく。

金 (4) 協議 子どもたちに身に付けさせたい力について

③ 各グループの模造紙を貼り，説明後，感想を伝え合う。



金 (5) 演習 2学期からの復興教育で行いたい活動について，中学生の立場になってアイデアを出し合う。

課題

総合的な学習で「T中学校地域を元気にし隊！発動」（案）という活動をするなら，あなたは，どんなことがしてみ隊ですか。アイデアを出し合ってみましょう。他の教科での内容もいいですね。短冊にたくさん書きましょう。

助け隊・避難所の人たちを対象としたショーや触れ合い等を行う。

伝え隊・みんなの思いをネット発信していく。

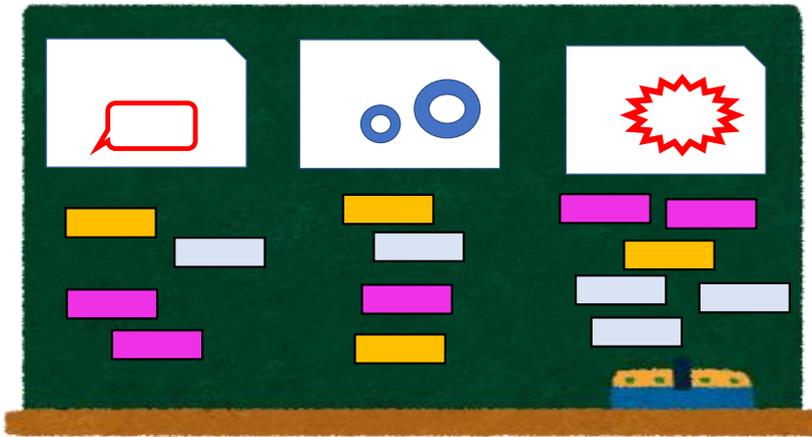
家庭科で炊き出しのための調理ができないか。

Aグループ オレンジ
Bグループ グレー
Cグループ ピンク
の3色の短冊に1つずつ
アイデアを書いていく。

金 (5) 演習

2学期からの復興教育で行いたい活動について、中学生の立場になってアイデアを出し合う。

育てたい力について分類し短冊を貼り、感想や意見を発表し合う。



オープンエンドな活動にすることで、今後の活動に向けての発想を広げ、先生たちの復興教育への意欲を高めていきたい。

金 参考

- [岩手県ホームページ トップページ \(pref.iwate.jp\)](http://pref.iwate.jp)
- [岩手県 - いわての復興教育 \(pref.iwate.jp\)](http://pref.iwate.jp)
 - いわての復興教育プログラム (平成24年2月 岩手県教委)
 - いわての復興教育推進校実践事例集 (平成25年3月 岩手県教委)
 - いわての復興教育プログラム改訂版 (平成25年2月 岩手県教委)
 - いわての復興教育プログラム第3版 (平成31年3月 岩手県教委)
- [いわて震災津波アーカイブ～希望～ \(pref.iwate.jp\)](http://pref.iwate.jp)

復興教育という考えがこれまでなかったため今回の授業が大変勉強になりました。ご清聴ありがとうございました。

災害後の復旧対応：復興のための地域づくりプランのための校内研修会

「T 中学校地域を元気にし隊！発動」（案）に向けて

きんまん 大塚邦子

研修の目的と概要

研修会では、全職員が復興に向けた活動の意義や、具体的な指導内容について議論を通して共通理解を図り、今後チームとして復興教育に取り組んでいくという意欲や連帯感を高めることを目的とする。

十和田火山の噴火により、住居や農地が火山灰で覆われ、住民は不便な生活を余儀なくされている。農業や商業は打撃を受け、県外との交流も少なくなった。自宅に住むことができない人たちは未だ避難所で生活している。そこで、復興に向けた活動を中学生が行う活動を通して、人との関わり、地域との関わりを深めていくことで、自己有用感や課題を追究する力等を高めるなど、生徒がさまざまな力を育てていくことができるのではないかと考える。そしてその活動は、地域全体の復興へとつながっていくことにもなるのではないだろうか。

研修会では、東日本大震災後の復興教育の実践例を聞き、復興教育の意義について共通理解を図る。また、復興に向けて中学生が行う活動を通して、身に付けさせたい力は何かについて、学校教育目標をもとにしてグループワークを行う。最後に、その力を身に付けるための実際の活動について、中学生の立場になっていろいろなアイデアを出し合う。

これらの活動を通して、職員全員で復興教育に向けての活動を始めていくのだという意識を高めていく。

事前準備

司会進行（教務） 渉外（教頭） 協議進行（研究主任）

- ・教頭は、実践例についてゲストティーチャーと事前に連絡をしておく。
- ・研究主任は、職員を3つに分け、各グループ1名ファシリテーターを決めておく。

研修参加者 T 中学校職員

研修時間 夏季休業中の午前中（2時間程度）災害が起きてから1か月程度と想定

内容

復興教育「T 中学校地域を元気にし隊！発動」（案）に向けて

- (1) はじめに（校長）
- (2) 研修会の目的と概要説明（教頭）
- (3) 実践例の紹介 ゲストティーチャー

講話「復興教育が育てる子どもに身に付けさせたい力とは」

ZOOM を利用して、復興教育の実践例を紹介していただく。いわての復興教育について、東日本大震災後に岩手県が行っている復興教育について事例を交えて話をしていただく。

休憩＜5分＞

(4) 協議 「子どもたちに身に付けさせたい力について」

- ① 復興教育を通して、T 中学校の子どもたちに身に付けさせたい力について学校目標「心豊かな、創意に富んだ、たくましい生徒の育成」をもとに、3つのグループ（A 心豊かな、B 創意に富んだ、C たくましい）に分かれて話し合う。

例 「心豊かな」

- ・避難所の人と話をすることで「思いやり」が育つ。
 - ・活動で地域の人に言葉をかけてもらい「自己有用感」が育つ。など
- ファシリテーターが模造紙に内容をまとめる。

- ② ファシリテーターを残し、グループを分散し、ファシリテーターが説明後、さらに話し合いを行う。

- ③ 各グループの模造紙を貼り、説明後、感想を伝え合う。

<休憩 10分>

- (5) 演習 2 学期からの復興学習で行いたい活動について、中学生の立場になってアイデアを出し合う。

課題 総合的な学習で「T 中学校地域を元気にし隊！発動」(案)という活動をするなら、あなたは、どんなことがしてみ隊ですか。アイデアを出し合ってみましょう。他の教科の内容でもいいです。短冊にたくさん書きましょう。

例 助け隊 ・個人宅の火山灰及び軽石の除去作業の手伝い

癒し隊 ・避難所の人たちを対象としたショーや触れ合い等を行う。

- ① 3つのグループに分かれ、やってみたいことをなるべくたくさん挙げる。

〇〇隊のように出してもよいし、教科のアイデアでもよい。

例 伝え隊 ・自分の思いや様子を鷹巣中生の目線でネット発信していく。

家庭科で炊き出しのための調理ができないか。など。

- ② 育てたい力について分類し短冊を貼り、感想や意見を発表し合う。

オープンエンドとする。

(6) リフレクション

5 参考資料

[岩手県ホームページ トップページ \(pref.iwate.jp\)](http://pref.iwate.jp)

[岩手県 - いわたの復興教育 \(pref.iwate.jp\)](http://pref.iwate.jp)

- ・いわたの復興教育プログラム（平成 24 年 2 月 岩手県教委）
- ・いわたの復興教育推進校実践事例集（平成 25 年 3 月 岩手県教委）
- ・いわたの復興教育プログラム改訂版（平成 25 年 2 月 岩手県教委）
- ・いわたの復興教育プログラム第 3 版（平成 31 年 3 月 岩手県教委）

[いわた震災津波アーカイブ～希望～ \(pref.iwate.jp\)](http://pref.iwate.jp)

学校危機管理に関する授業・研修プログラム

復旧対応

1. 研修学校 秋田県立 Y 高等学校
2. 研修参加者 Y 高校全教職員
3. 研修時間 90分
4. 研修場所 会議室
5. 研修テーマ

復興教育とは何か～Y高校は地域に何ができるのか、復興教育を通して生徒が身に付ける力とは

6. 研修の目的

国の復興教育、岩手県と宮城県の取組を参考にして復興教育について理解を深めるとともに、Y高校が地域づくりにどのように参画し、復興教育を通して生徒が身に付ける力について考える。

7. 研修会の進め方

時間	研修内容	講師の支援・
2分	(1)研修の目的を確認する。	➤ 今後、復興教育を進めていくためには、共通理解を持つことが重要であることを確認する。
3分	(2)研修の流れを確認する。	
10分	(3)国の復興教育について確認する。	➤ 文科省の資料をもとに国の動向などを説明する。
30分	(4)岩手県と宮城県の復興教育に関する資料を読む。	➤ よかった取組を参考にして、本校における復興教育の進め方を考え、付箋紙に書き出す。 ➤ 次の視点を重視するように話す。 ・ 地域や生徒の現状。 ・ 本校の強みを活かした地域貢献と進め方。 ・ 活動を通して生徒に身に付けさせたい力。
20分	(5)協議 (1グループ5人で演習) ・ K J 法を用いる。	➤ 付箋紙を模造紙に貼り付け、グループ化しながら、重視する視点について各班でまとめる。
10分	(6)発表 (各班の代表が発表する)。	➤ 各班の発表後、質疑応答を行う。
10分	(7)校長先生による指導、講評。	➤ 今後の流れについて補足する。
5分	(8)リフレクション。	➤ リフレクションシートを各自提出。

8. 準備するもの

模造紙 付箋紙（三色） 各種マジック

9. この研修により生み出される効果

- (1) 復興教育の目的や教育的意義について理解を深めることで、これから生徒が復興支援活動に取り組む際に、学校として身に付けさせたい資質・能力をふまえた指導や援助ができる。
- (2) 教職員が共通認識をもって復興支援教育に取り組むことができる。
- (3) 岩手県と宮城県の事例から学び、自校の復興支援教育に役立てることによって、地域に根ざした復興支援を行うことができる。

10. 前提

この研修は、「秋田県に大雨が発生したことによって町を流れる河川が氾濫したため堤防が決壊し、町全体に床上、床下浸水の被害が発生した」、という架空の状況を前提としている。なお、幸い、命を失ったものはいないが、家屋の被害は甚大で、土砂の撤去や町の復興には、多くの人手が必要であり、相当の時間かかる状況である。学校はなんとか再開することができている。生徒の中にも被災者があり、心のケアが必要である。

【参考資料】

『『いわての復興教育』プログラム（題3版）』 平成31年3月 岩手県教育委員会

『『いわての復興教育プログラム』 高校副読本』 令和2年4月1日 岩手県教育委員会

『みやぎ防災教育副読本『未来への絆』（高等学校）』 平成27年 宮城県教育委員会

『『創造的復興教育』の推進』平成24年6月21日 中央教育審議会 教育振興基本計画部会

いじめ防止プロジェクト研修

想定

学校配布のタブレットで、いじめが発生し、6年生の女子児童が自殺してしまった。ICT教育の旗振り役でもあった前校長は教育長に栄転し、マスコミによって盛んに報道された。保護者も学校の対応のまずさや報道等により、不信感が募っている状況である。この学校に次年度赴任して、研修を企画することになったと想定します。

第1回 いじめ防止プロジェクト研修会（4月上旬実施）

- はじめに（校長より）
 - ・昨年度の事件の経緯等の説明

- いじめ防止基本方針の確認と見直し（ワークショップ型協議）
 - ・いじめの未然防止チーム（Aチーム）

 - ・いじめの早期発見チーム（Bチーム）

 - ・いじめへの対応チーム（Cチーム）

※基本方針を読み合わせて確認したこと、今後気をつけていかなければならないこと、見直しが必要な箇所などについて発表する。

- いじめアンケート等の実施方法及び保管の方法等について（生徒指導主事より）
 - ・無記名アンケートの実施について
 - ・市教委調査による記名アンケートについて
 - ・アンケートの処理及び保管方法について

- 年間計画の確認
※A～Cチームは、実施日まで研修会の内容について協議して決め、職員会議で提案するものとする。

第2回 いじめの未然防止に関する研修会（5月）Aチーム担当

第3回 いじめの早期発見に関する研修会（6月）Bチーム担当

第4回 いじめへの対応に関する研修会（7月）Cチーム担当

参考資料として事前配付するもの

「〇〇小学校いじめ防止基本方針」「〇〇小学校いじめ防止プログラム」
「生徒指導リーフレット～いじめに関する項目」「いじめ防止対策推進法」

1 題材名 「広げよう復興の輪」 想定災害：東日本大震災

2 題材の目標

災害によって心に傷を負った被災者の方々に向けて、自分たちができる復興プランを考え行うことで、他を思いやる心を学ぶことができる。

3 児童と題材

マグニチュード 9.0 の東日本大震災から早 2 年。学校や地域の人々も徐々に活気を取り戻してきている。しかし、いまだに学校の整備が整っていない、復興がまだまだ足りないという現状を考えて、自分たちができる復興支援プランを計画する。田植えの時期が近づいてきているため、被災者の方々の願いを込めて田植えをし、稲刈りで収穫したお米を新米として被災地に送る計画を立てる。

4 単元の構成

時数	ねらい	学習内容
1,2	東日本大震災で被害を受けた陸前高田市の状況を知り、復興についての関心を高める。	被害を受けた住民や農家の話を聞く。
3,4,5,6	現状を踏まえて、今の自分たちにできることは何か考える。	復興のために自分たちに何ができるのかを考える。
7,8	自分たちが作るお米にはどんな特徴があるのか関心をもつことができる。	田植えのやり方など説明をよく聞き、理解を深める。
9~10	被災者への思いを込めながら田植えを行う。	田植え体験を行う。
11~13	稲がどれくらい育ってきたのかを観察する。	稲の観察を行う。
14~15	復興に向けて稲刈りを行い、コメを収穫する。	
16	自分たちが収穫したお米を届けに被災地に向かう。	自分たちが収穫したお米を届けに被災地に向かう。

5 本時の実際(本時 3/10)

(1) ねらい

現状を踏まえて、今の自分たちにできることを考える。

(2) 学習過程

	学習活動	指導上の留意点 評価
	<p>1 前時までの内容を児童同士で思い出しながら意見交換する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・どんな地震だったか →直下型、すごい大きかった ・被害がものすごい ・復興がまだまだかかる →何か自分たちにできることは何か <p>2 本時のめあてを確認する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・前時の振り返りで上げられた意見について、自分たちができることをピックアップし本時の学習の見通しをもつ。
	<p>被災地のために私たちにできることはないだろうか</p>	
	<p>3 復興のために何かできることを考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・募金を行い、復興のために使ってもらおう。 ・自分たちで育てた米を提供する。 <p>4 ペアになって考えたことを共有し、それが可能かを話し合う。</p> <p>5 グループになって共有したことを参考に復興プランを決める。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・自分たちが考えたことが果たして実現可能なのか時間的な制約も加味して考えさせるようにする。 ・実現可能なものにするために一つ一つ工程を明確にしていく。

第2学年 総合的な学習の時間 学習指導案

第2学年（1組26名・2組27名・3組27名）

授業者 大関隆貴

1. 単元「S地区の復興について考える」

2. ねらい

地域社会の一員として自覚をもち、地域の復興、発展に努める人々について理解し、自分にできることを考える。また、日本の災害と復興の歴史について理解し、郷土の復興と発展に貢献しようとする態度を身につける。

3. 単元設定の理由

今年は多くの台風が日本列島を襲い、各地に甚大な被害をもたらした。本校のある秋田市S地区でも令和××年7月豪雨の影響で浸水や土砂崩れなど被害が大きかった。全国各地でも集中豪雨や地震などの災害が起き、大きな災害が発生した一年であった。また東日本大震災から10年を迎える節目の年でもあることから、地震や台風などの自然災害から命や暮らしを守るために自分たちができることを考え、命や人々のつながりの大切さに気付くことのできるものである。

また、一年時には、社会科地理分野の授業において、自然災害についても学習したこともあり、災害時のボランティア、復興支援について多くの生徒が興味を持っている。

学習に当たっては、過去に国内で起こった大きな災害についての資料とともに実際に自分たちが体験したことやリアルタイムで報道されている情報を活かすことで、災害の恐ろしさや災害後の助け合いの大切さなどについて考えさせる。

また、S地区の復興について生徒が考えることで、地域の一員としての自覚と発展に努める意識を高め、生徒自らの進路選択につなげさせていきたい。

4. 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
① 災害の被害にあった人々の暮らしを支援する取り組みや人々の思いやり、支えあうための工夫や努力を続けることの大切さを理解している。 ② 地域の特徴を知り、人々との支え合い・関わり合いを通して、自分の生活に深く関わっていることを理解している。 ③ 「未来へ続く復興まちづくり」の取組を行ったり、体験活動をしたりして、収集した情報や図をまとめることができる。	① 災害の被害にあった人々や地域との関わり合いにおいて復興に向けての課題をつくり、課題解決に向けて自分にできることを考えている。 ② 「未来へ続く復興まちづくり」のために地域の人々とよりよい関わり合いをするために、必要な手段を選択して情報を収集している。 ③ 「未来へ続く復興まちづくり」のために必要な情報を取捨選択したり、複数の情報を比較したり関連付けたりしながら解決に向かって考えている。	① 「未来へ続く復興まちづくり」のために地域の人々と支えあい、関わり合う体験を通して、得た知識や自分と違う生徒の考えを活かしながら、協働して課題解決に取り組もうとしている。 ② 課題解決の状況を振り返り、「未来へ続く復興まちづくり」のために地域の人々とよりよい関わり合いに向けて取り組もうとしている。

5. 単元の指導計画・評価計画（全 30 時間）

時数	主な学習活動	評価の観点			評価規準
		知	思	態	
1. 2	・地域復興に向けて① 自分たちが何をすることができるのか考える。		○		・班ごとに協議をし、自分の考えを深める。
3. 4	・地域復興に向けて② 被災された地域の方々のお話を聞き、苦労や被災状況を知る。 ボランティア活動の内容の取り決め	○			・地域の現状を理解し、他者との関わりについて考えている。
5. 6	・災害ボランティアを行う①			○	・積極的にボランティア活動に取り組んでいる。
7. 8	・災害ボランティアを行う②			○	・積極的にボランティア活動に取り組んでいる。
9. 10	・災害ボランティアを行う③			○	・積極的にボランティア活動に取り組んでいる。
11. 12	・災害ボランティアを行う④			○	・積極的にボランティア活動に取り組んでいる。
13. 14	・災害ボランティアを行う⑤			○	・積極的にボランティア活動に取り組んでいる。
15. 16	・災害ボランティアを行う⑥			○	・積極的にボランティア活動に取り組んでいる。
17. 18	・ボランティア活動を通して振り返り① 活動内容の振り返り		○		・自分自身の活動を振り返り、ノートに記入することができる。
19. 20	・ボランティア活動を通して振り返り② 班ごとに意見交換 ・地域貢献・地域参画について① 街のために自分たちが改めてなにかができるかを考える。		○		・班ごとに協議をし、自分の考えを深める
21. 22	・地域貢献・地域参画について② 街のために自分たちが改めてなにかができるのかを考えを深める。 ・街づくりについて考える① S地区の復興支援について考える。		○		・班ごとに協議をし、自分の考えを深める。
23. 24	・街づくりについて② S地区の復興支援について考えを深める。		○		・それぞれの意見を比較検討し、考えを深めることができる。
25. 26	・街づくりについて③ S地区の復興支援について考えをまとめる。	○			・収集した情報をまとめることができる。
27. 28	・「未来へ続く復興まちづくり」発表 S地区の復興まちづくりについて班ごとに発表を行う。			○	・積極的に取り組むとともに、よい発表を認めようとするすることができる。
29. 30	・全体を通して自分の将来を考える 単元全体を通してどのような将来を考えたかを発表を行う。	○			・全体を通しての考えたことを発表できる。

6. 本時の実際（本時 20/30）

(1) 本時のねらい：ボランティア活動を振り返り、地域社会への貢献について話し合い、考えを深めることができる。【思考・判断・表現】

(2) 学習過程

時間	学習活動	学習形態	○指導上の留意点
			評価【評価の観点】 [評価方法]
導入 10分	<ul style="list-style-type: none"> ・前時にまとめた個人の振り返りを班ごとで共有する。 ・班で話し合ったことを全体に共有する。 ・学習課題の確認 	班 ↓ 全体	○生徒が意見をまとめることができるように班ごとで司会や記録を決めるよう指示する。 ○生徒が地域参画を意識することができるように、意見の共有から問いを持たせる発問をする。
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;"> 学習課題 私たちが外旭川のためにこれからできることは何があるだろうか？ </div>			
展開 30分	<ul style="list-style-type: none"> ・学習課題について考える。 ・意見交換 自分で考えたことを班で意見交換をする。 新しい班を作成し、各班の意見を共有する。 全体で意見を出し、地域のためにこれからできることをまとめる。 	個人 班 全体	○生徒が自分の考えを持つことができるように、つまづいている生徒に助言をする。 ○生徒に積極的に声掛けを行い、よい意見を称賛する。 <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> ボランティア活動を振り返り、地域社会への貢献について話し合い、考えを深めることができる。 【思考・判断・表現】 [話し合い活動] </div> ○生徒が考えやすいように、板書を工夫して行う。
終末 10分	<ul style="list-style-type: none"> ・本時の振り返りを行う。 各自の振り返りを発表する。 ・次時の確認を行う。 	個人 ↓ 全体	○本時の授業を振り返り、次時での取り組みたいことも記入するよう促す。